京城日報

二十八日夕刊

定價 本紙一部金三錢五厘 一ヶ月金六十錢 三ヶ月金一圓七十五錢
廣告料 五號活字一行金七十錢

發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 谷口政太郎
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社

◎上院各派協定成る

上院各派は臨時軍事費を無事通過せしむる事に協定成れり 減債基金還元問題も愈々上院の議事日程に上る際に至れば政府及び上院間意志疏通の途開かるべし斯くて內閣は豫算全部の議會通過を俟つて更迭すべしと傳へらる(東京電報)

◎山西蒙匪の勢力強大

目下山西北部に兇威を揮ひつゝある蒙匪に對して北京政府は既電の如く第一師長禁中將及び錦州第三師軍旅長に各々混成一旅を引率せしめて急發せしめ目下該討伐軍は豊鎮縣附近に集中しつゝあり蒙匪は其首領を盧魁福と云ひ前清朝の擧人にて曾て道台に任せしことあり嘯集せる部下の兵士は現在二萬人に上り且つ野砲山砲十餘門、機關銃二十餘新式銃一萬餘挺(綏遠城の混成旅が投降せしに由りて得たる者)を有し又投降士官中軍事の精通者ありて之れが指揮を爲しつゝありて其勢力仲々に強大なり多分官匪兩軍は豊鎮を距ること一百八十支里の涼城縣附近に於て衝突するなる可きも其勝敗は今の處豫測し難かる可しと云ふ猶綏遠城都統潘氏は防守失宜の廉に由りて褫職總統の激怒に觸れ革職の上北京に於て軍法會議に附せらる可しとの報あり其後任は臨時代理の孔山西第一師長、侍從武官陸軍中將何宗蓮、陸軍中將黃懋澄三人の候補者あるが此內孔師長の呼聲最も高しと(北京電報)

▲復陝匪の患

目下獨立軍の名の下に支那の西北部を騷擾せる者に山西蒙匪の外に陝西の匪徒あり其首領王黑は大元帥と稱し一萬餘の兵衆と多數の銃器とを擁して其勢威大に揚れる者の如し元來陝西省渭水の北方各縣には刀匪、會匪なぞありて前清末には各々黨を結び兵を擁して兇威を逞うしたるを革命黨は巧みに之れを操縱して以て清朝を倒し其後之れを解散して鄉里に歸らしめたるも兇險好亂の彼等は只管風雲の到るを睥睨せる際に這般の雲南獨立軍勃發したればさてこそ一齊に蹶起したる者にて今の處十八の小黨に分れ孰れも首領ありて共和の維持、帝政の倒滅を以て旗幟とせるが其統一上より王黑を大元帥に推薦したる者なり彼等は一擧に省城西安を屠りて後四川及び雲貴と聯絡して中原を窺はんとする大志を懷ける者の如くなれば北京政府に取りて油斷し難き患害を爲すに至る可し(北京電報)

◎英國勞働黨大會の決議

ブリストルに於ける勞働黨の本年度大會は政府を援助して戰爭を遂行せしむべき事を誓約すべき決議案を六十二萬對百五十萬二千の多數にて可決し大賞讃を博せり(倫敦電報)

▲反對の報道

ブリストル來電に曰く英國勞働黨大會は大多數を以て強制徵兵案に對しては其形式の如何を問はず反對すべき旨の決議案を可決したり(紐育電報)

◎高加索方面露軍優勢

ストリハン河中部前線に於て敵軍は露軍に向つて猛烈なる砲擊を行ひたるも何等の効果無し高加索全線に於て我軍は多量の食糧品及び糧秣を鹵獲したり(露都電報)

◎英佛海峽及び北海の封鎖

倫敦來電に曰く佛國艦隊は今後英國艦隊と協力して英佛海峽並に北海の封鎖勤務に就く事となれる旨發表せらる(紐育電報)

◎墺帝の卒倒

歐洲來電に據れば墺國皇帝は卒中症にて卒倒し今や臨終に近かしと(東京特電)

◎對獨封鎖 決議案の提出

獨逸に對する封鎖を一層嚴重にせん事を政府に要求す可き決議案は上院に提出せられたり(倫敦電報)

◎金玉均表彰案

頭山滿氏等は常年上海に於て非命に斃れたる故金玉均氏の功績表彰に關する建議案を議會に提出すべく計畫中なり(東京電報)

◎金融稍逼迫の狀

金融界稍逼迫の狀を呈しコール暴騰す(東京電報)

◎練習艦隊司令官招宴

練習艦隊司令官松村少將は白武、飯田兩大佐、左近司、佐藤兩參謀を隨へ二十八日午前十時總督府に山縣政務總監を訪ひ敬意を表せり而して政務總監は同日零時半より以上の五氏を朝鮮ホテルに招待午餐の饗應を爲したり

▲鐵道訪問

練習艦隊司令官松村海軍少將は幕僚を隨へ廿八日午前十一時龍山に鐵道局を訪問敬意を表したり

▲學校視察

松村練習艦隊司令官は白武、飯田兩大佐、左近司、佐藤兩參謀を隨へ午後二時半より弓削學務課長の案內にて京城女子高等普通學校を視察したり

▲總監饗應

山縣政務總監は二十八日入京せる練習艦隊の士官並に候補生等を零時三十分より朝鮮ホテルに招待、茶菓の饗應ありたり

▲愛婦接待

愛國婦人會朝鮮本部にては二十八九の兩日吾妻、磐手兩練習艦隊下士卒一千三百餘名の入京見學に對し景福宮內に於て茶菓、卷煙草を供し歡迎接待を爲す

◎故子爵と赤十字

前赤十字社朝鮮本部評議員特別社員子爵高永喜氏の薨去に對し山縣總長は二十七日大橋主幹を子爵邸に遣はし花房本部社長の弔詞を傳達せしめ且つ葬儀に際し本部より花環を贈る筈なり

◎猩紅熱撲滅策

二十八日午前十時より京城府內各警察署衛生主任警部警察醫學校醫等警務部に參集警務部よりも警務部長並に衛生係の諸氏一同猩紅熱撲滅策に關する詳細なる協議をなしたるが主として居住の家屋構造、塵芥の多寡、個人の素因其他一般猩紅熱に關する事項を協定する所ありたり

◎定例長官會議

二十八日は定例長官會議日に付き山縣政務總監以下各部長官、局長等は午前十時より總督府第一會議室に參集し重要事項に就き種々打合せの上正午散會したり

◎仁川商議評議員會

仁川商業會議所にては本月二十九日午後一時より同所樓上に於て第一回評議員會を開會する由なるが其決議事項左の如し

一、創立事務報告の件二、創立費承認の件三、役員選擧の件(會頭一名副會頭二名常務委員五名)四、大正五年度經費豫算及徵收方法に關する件

▲取引所代表者

仁川米豆取引所より奧田貞次郎氏を代表者として評議員に推薦の件は去る二十五日付を以て米豆取引所より當商業會議所宛屆出たるが會議所は二十六日總督府へ其旨報告せり

因に今回當選せる評議員鈴木氏は諾否不明なりしも愈々就任を承諾したる旨夫々會議所へ屆出でたる由

▲共益社代表者

今回仁川商業會議所評議員に當選したる共益社支店は二十六日付を以て同支店代表者張錫佑氏より辭任の旨屆出でたるを以て其結果次點者たる徐相彬氏當然就任する事となり商業會議所よりは同氏に對し通知狀を發せり

◎木曜會例會

京城の官民有志を以て組織せる木曜會は二十七日の午後六時半より京城ホテルに例會を開會せり來會する者十一名總督府の藤川、平井、青木の各課長矢鍋通信課長、安藤警察課長、淺見高等法院判事、岡田李王職事務官、今井理事官、山縣九十郎、渡邊知足の諸氏にして晚餐を共にしつゝ歡談に時を移すこと暫時其より別室に於て工業傳習所技師今津理學士の『戰亂と日本の化學工業』の有益なる講演あり約一時間にして終了の後更らに雜談を交へ散會したり同會は先般五年前故[illegible]、[illegible]の兩氏により發起されたるものにして會長もなければ會規もなく只だ輪番の幹事によりて每月終りの木曜日に例會を開き會員の研究又は意見の發表等を爲せるものにて京城に數多ある會の內趣味の一頗る面白きものと云ふ可き會合なりと

◎赤十字評議員囑託

朝鮮銀行總裁勝田主計氏は今回日本赤十字社總裁閑院宮殿下より朝鮮本部評議員を御囑託ありたり

◎大藤副官入院

過般寺內總督に隨從し露國太公殿下を奉迎して東上せる大藤副官は旅行中手の微傷より浸毒し東京著後赤十字社病院に入院治療中なるが近く全癒すべしと

◎スター博士講演會

スター博士は入京次第貞洞なる亞細亞協會朝鮮支部に於て朝鮮の人類學又は古蹟に關する講演を爲す由なり

◎水原蠶業講習所卒業式

水原勸業模範場附屬女子蠶業講習所に於ては來る二十九日午後二時半第六回卒業證書授與式を同講習所に於て擧行の筈なるが當日は石塚農商工部長官代理の訓告及び本田場長の式辭等ある筈なり

平壤

▲表彰金問題解決

平壤鮮人側商業會議所表彰金問題は其の後府當局の熱心なる仲裁に依り會頭側及び會員側の意志疏通するに至りたるが二十七日も本田府尹は府廳樓上に鄭仁赦、李德懷、林錫璋、鼎數、金尚鳳氏等の有力者を召致し懇々と諭す處ありたる結果會員側は役員側の措置甚だ不公平なるも已に事後に屬するを以て穩當に默認する事となし鄭仁赦氏は自己の失態より端なくも今回の紛擾を醸したるは不德の致す處なりと陳謝する處ありたるより双方圓滿なる妥協を遂げて解散したるが一般會員も此等有力者が確執を解きたる以上は再び役員側の非を鳴らすが如き事無かる可しと

▲特使隨員北行

支那派遣の特使隨行の農商部參事、一行二名は二十五日遂安金鑛より來平、平安農工銀行及び平壤地方金融組合等の事業を視察し二十六日は寺洞鑛業所を視察したるが二十七日北行の列車にて安東縣に向へり

▲府隔離病舍入札期

平壤府隔離病舍は府內に建設すべき事は既に報じたる處なるが設計書は今明日中に出來すべきを以て二月初旬には請負入札に附する由なるが工費は約千二三百圓なりと

公州

▲學校組合議員改選

二月六日を以て任期滿了の公州學校組合會議員の改選は二月七日午後一時より四時迄の間に錦江館に於て選擧執行せらるゝ筈なるが定員八名當日は選擧人名簿に捺印を要するに付實印又は認印を必ず携帶すべしと

▲學齡兒童入學

公州學校組合區域內に在住し明治四十二年四月二日より四十三年四月一日迄に出生したる內地人兒童は來る四月一日を以て就學年齡に達すべきに付右學齡兒童保護者は入學願書に戶籍謄本又は抄本を添へ來る三月十五日迄に同學校組合事務所に差出すべしと

▲昨年の大豆收穫高

一萬三千八百四十一石小豆五千百七十九石綠豆四百三十石其他を合し二萬九千七百七十六石の產出を見たり

湖西行 (第五信)

鯨洋生

廿七日午前八時四十分江景發論山に向ふ、九時著下車直に論山郡廳に敬意を表す、廣瀨、丸山兩書記より發展狀況を聞き、若干時の猶豫を利用し、且つ兩君の勸めに從ひ廣瀨君の案內にて湖南三巨の隨一、恩津の彌勒を見る、驛を去る一里、新道路を行く途中出市の牛商人絡繹たるに一驚を喫す、予は彌勒とは初見參に非ざるも、見る度每に其の巨大なるには驚かざるを得ず近時保存會組織され、四顧の風物一新せしは、觀覽者の欣快とする處也、附近の櫻樹は、曾て我社が、神武天皇祭を以て朝鮮各道に吉野櫻を分配せし、其の一部なるが、樹容頗る良好、此の遊山紫水明、展望却々に可也(論山にて)

大邱

▲慶北道面積確定

從來慶尚北道の面積に關しては總督府調査によれば一千三百方里と稱し慶北道廳の調査によれば一千六百十方里と稱し未だ正確なるものなかりしが今回慶北警務部にては方眼測定により一千二百二十八方里二九を得器械測定により一千二百二十八方里六三を得たれば平均面積一千二百八十八方里四六となるに依て慶北道廳と協議の上右面積を正確なるものなりと決定せり

▲慶北駐在所新設

慶尚北道にては廿七日付を以て盈德郡江口町、善城郡新平に各巡查駐在所を迎日郡部邱には巡查派出所を新設すべく認可さる

▲迎日水利組合

慶北道迎日郡水利組合は豫て事業計畫中の所總て設計を了したるにより同組合創立委員長大塚昇太郎氏は二十五日慶北道廳に首腦者を訪ひ諸般の打合をなし右組合の認可申請書を提出せしが道廳にては意見を附し即日總督府に進達せるにより大塚氏は事業計畫の說明及び諸般の協議東拓より借入の資金二十萬圓の年額割當等協議の爲め二十五日京城に赴けり

▲兵營敷地醵金既納

大邱兵營敷地醵金は其後著々步を進めつゝあるが一月二十一日より廿七日まで通計金七千二百三十五圓三十錢に達せしが幹部は更に極力豫定既納者を見る可く奔走しつゝあり

▲期成會幹事會

大邱兵營設置期成會にては二十七日午後慶北道廳に於て內鮮人の重立者會合し双方の意志疏通を圖り鮮人側一萬圓醵金することに決定せりと

▲穀物組合事務所建築

慶北道穀物組合は事務所の狹隘を告げ執務上不便尠なからず愈々新築と決定し目下其の計畫中にして近々評議員會を開く筈なるが之が經費は本年度手數料收入豫算六千五百五十圓に對し一月二十日迄の檢查穀物六十萬叺を超過し此手數料九千圓に上り年度末迄に尚ほ十萬叺の輸出を豫算せば本年の剩餘金は四千圓を超ゆべきに付其の一部分を基本財產として積立て一部分を新築費に充つべしとのことなるが建築費は約千五百圓位にて敷地は慶北道廳構內を借受くべしと

▲隊長部長會議通知

憲兵隊司令部警務總監部にては來る四月十日より十七日迄各道憲兵隊長及び警務部長會議を開催すべく慶北警務部へ通知ありたり

▲安東分會長囑託

豫備一等軍醫藤井春喜氏は慶北在鄉軍人安東分會長に砲兵中尉四宮章三氏は同副會長に其々二十七日付を以て囑託任命さる

▲大邱學校組合會議

大邱學校組合にては二十九日午後一時より大邱府廳樓上に於て組合會を開き四年度組合豫算變更の件に關し協議を爲すべしと

▲高靈學校組合議員補缺

慶北高靈學校組合にては十八日補缺會議員の選擧を執行したるが久野逸三、植田春太郎の二氏當選せり

▲中山副官歸任

管內各地を巡閱中なりし大邱憲兵分隊副官中山管佐氏は二十七日歸任したり

▲竹林慶北道書記出張

慶北道廳書記竹林規矩夫氏は穀類狀況視察の爲め二十七日より向ふ十一日間の豫定にて安東郡に出張せり

▲谷道技手出張

慶北南項築堤其他東海岸土木事務調查の爲め十五日間の豫定にて廿九日浦項地方へ出張

▲矢吹道技手出張

慶北尚州洛東海平間一等道路檢查の爲め五日間の豫定にて廿九日尚州へ出張

釜山

▲府協議會

釜山府にては二月一日午後一時より府廳樓上に於て府協議會を開き富平町市場府經營に關する件及び外二件を附議する由

▲新商議員選擧

新商業會議所令に基き組織する釜山商業會議所にては既に定款は總會の決議を經て鮮人側との協定も了したれば愈々會員三分の二の承認を求め二月上旬其筋に出願する運に至れり依つて議員選擧は年度限內三月二十日前後に擧行し新年度と共に新會議所設立の計畫にて迫間會長及び花輪書記長以下熱心に殘務の整理と新組織の諸務とに努力しつゝあり

車窓獨語

河水生

二十六日京釜線車中にて

新幕の雨、瑞興の雪、聊か我が防寒具の備薄きを憂へしめたるも、沙里院にては斷雲の間、忽ち日光を見る。雨に風に一喜又一憂、さても淺ましの我が心や。

新幕、沙里院の驛頭は車窓一瞥の間に看取せらる。而して累々たる驛頭の貨物は恰かも此等奧地の開發せられつゝある現狀を物語るものに似たり。殊に唐箕其他各種農具の荷作りせられたるものを殆んど每驛に見たる、以て改良農具需要の狀況を察すべく、又以て當局の勉強を想はしむ。

京義線車中の京釜線に比して寂寞たるは餘儀なしとするも、今日は又一等皆無の二等僅に六人なり。

但だ一組の若夫婦の密語喃々たるあり、揃ひも揃ひたる生眞面目漢を驅つて欠伸の競爭を演せしめ了せり。爲めに名句も出でざりけり

ポプラ植ゑて玆に五年や小六月

この一路北京に通す吹雪かな

▲朝郵運賃値上承認

釜山移入商組合、雜貨商組合の役員會より朝郵本社に對し二月一日よりの運賃値上實施を四月一日迄延期を要望せる所會社よりは既報の如く內外經濟界の情狀上止むを得ず斷行する旨回答ありたるに就き組合にては二十六日松濤庵に於て役員會を開き協議の結果戰亂歇み海運界平靜に復したる場合は料率を復舊するの條件を以て承認する事に決定せり

▲食糧品會社配當

釜山食糧品會社にては二十八日同社樓上に定期株主總會を開催し大正四年度營業報告利益金配當の承認を得たり而して配當率は年六朱即ち一株に付金一圓五錢の割也

◎安東在鄉軍人會

帝國在鄉軍人會安東分會は來る二月十一日を以て創立滿四週年に相當するを以て當日記念式を擧行し模範會員の表彰を行ふ筈(安東縣)

人事消息

▲白井少將(總督附武官) 廿八日午前內地より歸任

▲池邊龍一氏(總督府秘書官) 同上

▲松本[illegible]士 [illegible]より廿七日歸京

▲山口貞昌氏(法務課長) 民刑事及び非訟事件事務視察の爲め二月一日より全羅南北兩道管內に出張を命ぜらる

▲岡今朝雄氏(土木課長) 歸任の途次[illegible]受に付打合の用務を以て大分縣に出張を命ぜらる

▲スタール博士 入京中の處金剛山觀覽の爲め廿八日朝出發元山へ

▲新田留次郎氏(鐵道局清津建設事務所長) 入京中の處廿八日朝出發歸任

▲水谷千萬吉氏(平壤鑛業所長) 二十八日朝內地へ

▲京城駐在米國副領事 同上列車にて成歡へ

▲大屋鐵道局長官 二十七日夜釜山へ

▲京城駐在露國領事 廿七日夜釜山へ

▲三木警察課長 同上

▲子爵李容植氏 二十八日朝沙里院より歸京

▲水產組合總代會

朝鮮水產組合は二月十五日より五日間の豫定にて第四回通常總代會を釜山本部に開く事に決定せり海に瀕せざる忠清北道を除く十二道より出席する代表總代は左記二十三名にして一道每に內鮮人各一名宛と確定せり

咸鏡南道	未定	朴昌
江原道	森萬次郎	李順昌
慶尚北道	堀野熊雄	崔道
同	香椎源太郎	裴宗一
同南道	石原政治	池元
全羅南道	森脇今一	金學斗
同北道	岡[illegible]作	南[illegible]九
忠清南道	池永登一郎	文顯獻
京畿道	杉林五郎	李[illegible]行
黃海道	富田儀作	金宅國
平安南道	吉田雅一	[illegible]
同北道	山下勘五郎	張樂三
咸鏡北道		天

右の內那熊雄、金樂國、文應三、吉田雅一の四氏は新任他は何れも重任者なり

◎日支關係の流言

倫敦來電に曰く日本は支那に對して支那を保護の下に置く交涉を開始せりとの流言を傳へつゝあり(東京電報)

◎雲南軍の猛烈なる進擊

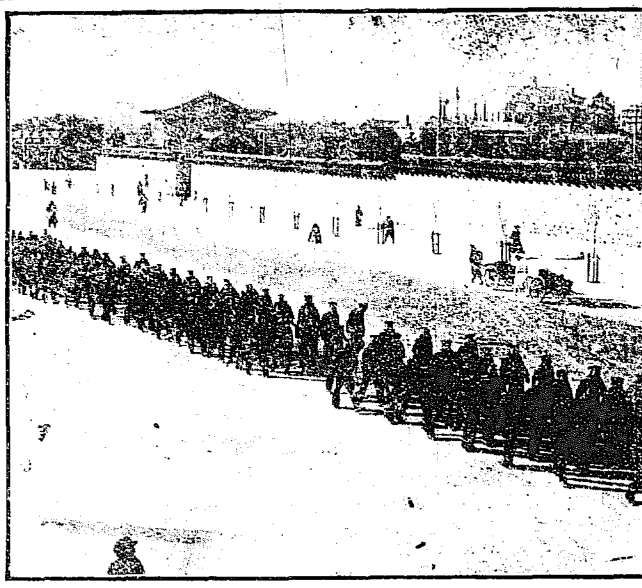
成都來電に據れば雲南軍は北軍に對する戰機愈々熟し猛烈なる進擊を開始せりと(東京電報)

◎支那無線電信計畫

北京政府は西北各地の騷擾に鑑み軍事上交通の敏速を期する爲め山西、陝西、甘肅、四川、新疆、伊犁等に無線電信を設く可く已に交通部にて計畫に着手せるが如し猶右電信局は山西は綏遠に、陝西は西安に、甘肅は狄道に、四川は成都に、新疆は迪化に、伊犁は沙拉烏蘇に開設する筈なりと(北京特電)

□水兵さんの京城見物

目下仁川入港中の練習艦隊磐手、吾妻二艦乘組員准士官以上百三十二名下士以下六百名は二十八日午前八時三十分南大門驛着列車で入京市中を見物して歩いた



●波路も榮に輝きて
太公殿島參拜=關門御通過

露國太公殿下には廿七日午前九時三十分廣島宇品港より軍艦鹿島に御乘艦敷島の供奉にて第五艦隊潮、朝風二驅逐艦警備の許に

▲吳軍港に 成らせられたり之より先き村上第三艦隊司令長官は鹿島以下前記四隻を率ゐ二十六日午前十一時宮島に入港したるが二十七日午前八時殿下御一行の御到着奉迎のため敷島副長黒瀬中佐は海軍陸戰隊一箇大隊を以て海軍々樂隊と共に儀仗隊を組織して奉迎し殿下を初め隨員は鹿島に、寺內朝鮮總督以下の接伴員は敷島に乘艦吳軍港の御視察あり尋で同軍港御入著と同時に

▲公式の儀列 に依り宇品より御乘艦吳を經て宮島までの御航海中には御乘艦鹿島檣上高く露國皇族旗揭揚され宇品より御乘艦の時と吳より發著の際は各艦滿艦飾をなし皇禮砲を發射し敬意を表せり吳軍港には大戰艦以下六十餘隻在泊せるをとて各艦滿艦飾をなし皇禮砲を發射する光景壯觀云はん方なかりき斯くて午後三時半吳拔錨同四時半宮島に御著嚴島神社に

▲御參拜 同島の夜景を御覽あらせられ御一泊の後二十八日午前九時宮島御發同日午後關門海峽を通峽の筈なり(吳特電)

▲御通峽時刻 露國太公殿下には二十八日午後三時より四時迄の間に關門海峽御通過あらせらるゝ旨第三艦隊參謀より通知ありたり(下關特電)

●關門官民の奉送
滿港の汽艇より起る萬歲の諸聲

露國皇帝御名代の宮殿下には二十八日午後四時御召艦鹿島にて敷島、潮、朝風供奉警衛御通峽關門二市にては港務部水上署其他市長議員官民有志市民十數隻の汽船にて警衛と共に歡迎奉送し市內學校生徒一同は海岸にて露國々旗を揭げ萬歲を唱へ盛なる御見送りをなす(門司特電)

●京中武道大會 京城中學校に於ては廿九日(土曜日)午後零時半より……し居り一般有志の稽古辭意なりと因に期間は向ふ二週間にして毎日午前……

……せしに大正四年十一月五日總督府醫院發行の診察券を所持し居り取調べ……より貸金の催促を受けたるを憤り同……

●小包郵便の中に拳銃
外國汽船の戰時禁制品

英國外務省の發表に依れば此程米國より來れる瑞典汽船に『金槌』と貼紙し中に銅を詰めたる箱十五個を發見其の後南米より來れる和蘭汽船に搭載の小包郵便中より拳銃四百個を發見したりと(倫敦電報)

●馬賊大擧邦人を襲ふ
石碑嶺炭坑及下九臺驛の慘禍

二十六日午後四時七八名の馬賊滿鐵附屬地石碑嶺炭坑監視家屋二軒を襲ひて先づ電線を切斷し日本人三名を棍棒にて毆打し被害者甲斐田直茂は滿鐵病院に入院賊は官帖七百吊貿藥品價格五十圓外衣類を強奪し行衛を晦ましたり支那舊曆年末に際し不景氣を來し在留日本人は頗る迷惑を感じ居れり又過日午後四時吉長鐵道下九臺驛の齋藤石造も數名の馬賊の爲めに負傷せしめられたりとの電報當地領事館に達するや警察署より長松警部補池田巡査を作ひ取調べの爲め二十八日吉長鐵道列車に搭乘して該地に出張せり(長春特電)

●便所の中から爆彈
大分物騷になつて來た安東縣

二十五日朝陣營帶官が便所へ出かけたる折しも一個の紙包の便所內へ投棄しあるを發見し何物ならんと取調べたる所疑ふ可くもあらざる爆彈なりしにぞ大騷ぎとなり直ちに夫々犯人の搜査中なりと云ふが之は或は先日來の匪賊襲撃事件に基く巡防隊員の不逞者の行爲に出でたるものならんかと(安東縣)

●紙幣と質札を寸斷す
櫻井町宵闇の強盜=忽ち就縛

二十七日午後八時頃京城櫻井町一丁目の橫手裏路次人通り稀なる物陰に於て二人の壯漢が激しく格鬪する音聞え次で救ひを求むるけたゝましき悲鳴の聲を聞

▲悲鳴の聲を聞 きつけ最寄交番所の警官驅けつけたるに早くも一名の曲者は逃亡して姿を晦ましたるより殘りたる一名の若者に就き取調べたるに右は黃金町四丁目の金子質屋の店員と知れ「只今強盜に逢ひました

▲賊は山サご襟 に染め拔いた法被を著てゐる二十歲位の內地人です」との事に急報を受けたる本署にては即時詰合ひの棚橋佐々村重久平林の四刑事直ちに搜索を開始したる結果曲者は龍山方面に逃走したる形跡あるを突止め犯人の人相著衣等に依り鑑定をつけ正しく犯人が龍山漢江通り立山某方に潜伏し居るを探知し一時に

▲四名の刑事襲撃 して有無を言はさず難なく取押へて本署に引致したり此奴は朝鮮生れの山口縣人にて川上事津村利夫(二〇)といふ者にて取調べの結果同人は二十七日朝龍山大倉組出張所にて自轉車を竊取し同日夕刻之を携へて黃金町四丁目の前記金子質屋に入質せんとしたる際店主に怪まれたるより『自分は櫻井町一丁目に居住し居る野村といふ者だ決して怪しい者ぢやない』と胡魔化したるも店主は倘念を押し夫ちや自轉車は預かり入質代金と質札とは御宅迄店員に持たせて同伴さすべしと店員をつけさせ同行中櫻井町の人通りなき裏路次に至るや曲者は店員の持ちたる金員及び

▲質札を強奪せん と俄かに暴行を始め茲に格鬪となりたるものにて紙幣も質札も千切れて四邊に散亂し居たりと

●彗星現る
北方へ進行中

過般東京天文臺に達したる米國ハーバード天文臺の通信に據れば同國シカゴ天文學會に於てテイラー氏は客臘末喜望峰にて一彗星を發見したるが同彗星はミラデルター、オライオン星座に近接し漸次北方に向け進行中なりとの事にて右に付き天文臺員は目下是れが觀測をなし居るも未だ發見するに至らず今後果して出現するとせば其位地は東方地下線の附近なるべしと(東京特電)

●獨探徘徊
浦鹽官憲の警戒

十七日午後六時浦鹽エゲルセート埠頭(東清鐵道埠頭)の軍需品貯藏地にて自動車に乘組みたる者彼處此處と乘廻したるを警護の憲兵步哨兵發見し其場より拘引せり獨探なりとの事なり近頃該地に於て散髮の朝鮮人、支那人が捕へらるゝもの頗る多く是等は獨探嫌疑者なるが如し(浦鹽特電)

●朝鮮撞球選手大會開催

朝鮮撞球選手大會は愈々二十九日及び卅日京城本町講倶樂部にて開催することゝなりたるが平壤其他各地方よりも參加者あり會員二十餘名定めて盛況なる可し

●老婆爆彈二百個を密輸入

一月十八日朝釜山入港の弘濟丸乘客中愛媛縣越智郡櫻村上きく(六)は密輸入の目的を以てダイナマイト二百餘個を二十包に分け信玄袋に土產物の如く裝ひ持參せしを稅關官吏に發見され檢事局に留置中なりしが二十七日罰金九十圓に處せらる

●料理屋有屋病院の恐慌
暖くて氷が採れぬ

本年に於ける氷採取高は例年六七十萬貫に達したるも本年は殆んど在元分なる結氷を見ざる爲め採取貯藏者は何れも悲觀しつゝあり若し此の儘に經過したらんには本年夏季の氷價格は非常に暴騰するのみならず天然氷のみを使用しつゝある當地方に在ては品不足を告ぐるなるべく魚類貿者料理屋病院等に於ては前途を見越して大恐慌を感じつゝあり

●因果な双兒

原籍熊本縣熊本市坪井生れ當時大邱大和町堀酒店の傭人陸軍豫備二等看護卒大塚繁雄(三二)は二十日村上町野金太郎方より自轉車一輛を竊取し大和町伊藤紙店前の杉原酒店より堀酒店の使なりと詐稱し酒一升を詐取し飲み盡したる後又も電話にて堀酒店の名にて酒一升を取り寄せんとしたるも果さず今度は前記桑野方より竊取したる自轉車を持つて大江樓に登樓し金五圓にて遊興中を捕へられ目下大邱署にて取調中なり此奴は竊盜前科三犯の曲者にして同人と双兒なる大塚倭雄(三二)も數日前大邱にて橫領を働きて捕へられ目下大邱地方法院檢事局にて取調を受け居れりと(大邱)

●吳服專門の賊

京都市下京區新寺町生れの桑原利助(五)は京城本町三丁目に居住し吳服行商をなし居れるものなるが昨年十二月二十四日本町三丁目の某吉著屋より御召二反外二點(二十八圓)を請取りて之を他に賣却し代金一部を不拂にて其儘打過ぎ本年一月十五日にも同家より他人の名義を騙りて縮緬紋付一枚(八圓五十錢)を請取りて之を他の質屋に入質消費したるを手初めに昨年十月中には旭町一丁目の某吳服屋に雇はれ反物販賣中友仙縮緬外十七點(百三十餘圓)を持出し二十一名の內鮮人に貸付けありと稱し其實は質屋に入質或は賣却して代金を橫領消費したることを本町署の刑事に採知せられ取調べの末檢事局へ送られたり

●臺灣は寒い

臺北附近の高山一帶に降雪あり數年來稀有の寒氣にて氣溫華氏五十度也(臺北特電)

●百圓の黑鼠

北海道小樽區花園町當時仁川本町四丁目居住無職宮田惣五郎(三七)は昨年八月中京城本町四丁目の吉田某女より郵便貯金通帳及び印章を預けられたるを奇貨とし同人の貯金三十圓餘を二回に拂出して橫領消費し昨年七月中には京城明治町の山崎某方に雇はれ前後四回に同家の取引先より送附し來れる金員或は出納記帳を誤魔化して同家より約百十六圓の金額を橫領消費したることを本町署の刑事に採知せられ同署に於て取調の上檢事局へ送られたり

●醉漢の大立廻

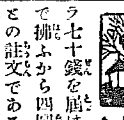
京城苑南洞魚類商隅田坤太郎(二七)方へ隣家の日稼鮪熊先行(二三)が二十七日午後四時頃醉酣して入り來り日頃知合ひの間柄なるより種々と雜談し居る內酒の上より管を卷き始め大格鬪となり兩名共微傷を負ひしが示談事濟みとなりたり

史外 風雲兒(七)
京城時代の袁總統

▼此母、此子 尹蘭琦遂に彼が手中に入る=蜜の如き戀愛に惑溺す=克文君生る=彼れ慮=堂母兒孫を率ゐて故山に歸る=大野望

彼の思を懸けた美姬尹蘭琦は實に朝鮮王の最も寵愛して居つた妓であつた。從つて容易なことでは手に入る見込みが付かなかつた。遂に彼は意を決して曾て一度も哀願した事のない朝鮮王に對して辭を低くして彼女を請ひ受けんとした。而かし彼はそれが甚だしく自分の權威を殺ぐもののやうに考へられて獨り心を苦しめた。結局彼は自分から直接王に尹蘭琦を請受けるよりも傍の者より王を動かすのに如くはないと思ひ、彼の慣用手段たる買收策を用ひて盛んに宮中の官人に贈賄した。此の手段は遂に効を奏して、或日の宴に、王より賜ものとして尹氏は彼の手中の玉となつた。之より以後彼の邸內は匂ひ高き花の一つを添へて春風殊に駘蕩たる風情であつた。尹氏は彼の愛を專にして間もなく彼の胤を宿して産んだのが今の克文君である。そうして尹氏は第二夫人となつた。尹氏が家庭の人となつて以來、從來の質素の風は幾分破れて諸事華美に行はれる傾きが有つた。彼の母堂は非常に之れを憂ひ時折彼に對して訓戒を加へた事もあつた。尹氏の生んだ克文は兄の克定に比して鷹揚寬大であつた爲めに彼の鍾愛は世の常に似ぬ程であつたが、母堂は餘りそれを悅ばなかつた。

●愛に惹かれて外交方面の辣腕が聊か鈍つたのを見て非常に憂慮した末、遂に第一夫人第二夫人及び二人の孫を引き連れて暫時故山に歸つて嫁と孫を相手に暮し度いと彼に相談した。母堂の言葉には背かぬ彼は母の相談を快く承諾して、暫時妻子を母に托して故山に歸した。之れ袁の心中には此時更に大なる野望が萌したからである。



▲二十六日の夜大和町の某官舍から本町の大和軒に電話がかゝつた▲只今大急ぎでカステラ七十錢を屆けて吳れい猶ほ五圓札で拂ふから四圓三十錢の剩金を持て來いとの註文である▲其處で小僧は自轉車を飛ばして件の官舍に向ふと先方では『それは何かの間違ひぢやらう當方では注文した覺えが無い』との返事▲其處で小僧は狐に抓まれた氣持ちで再び老人亭入口の小暗い處を通りかけると其處に一人の大男が居つて『オイ小僧』とよびかけた▲『俺は〇〇だが何故速くカステラを屆けんのか』と始めの注文先きに似通つた名前を名乘る▲そして見く其のカステラと剩金錢を渡せといふので小僧はいよいよ二度吃驚▲此奴ナツプンサラミの御入來と許り自轉車の把手を宙に飛ばして明るい本町の通りへ逃げ出したは好いがカステラを大事に抱へたまゝ『人殺し』

●連絡船上陸客 廿七日午前釜山入港新羅丸二二等客 ……

天氣 は ▲西の風晴(一時曇り) (二月廿八日午前六時より廿九日午後六時迄)

開業廣告

元仁川病院長 內科專門 醫學士 齋勇(イツキ)
龍山元町二丁目六十五番地(龍山ホテル前)
京城、仁川、水原往診ノ需ニ應ズ
電話二五八番

家庭雜誌 二月號 定價金十錢 郵稅一錢半
家庭の交際は如何にすべきか……三名家
我國の婦人に奬めたい事……新戶邊博士
不良少年は母の罪……原胤照
外人に嫁した日本婦人家庭談……二名家夫人
本年から改めたき事……懸賞當選六案
我國小兒死亡の四大特徵……二階堂統計官
長篇小說 黃菊白菊(大好評連載) 後藤宙外
獨身生活の婦人の境涯……三婦人の告白
六人の子を手腕にかけた華族の奧樣……石野子爵夫人
強盜を改心させた私の經驗……鹽野博士夫人
會計 百生活……各種家計研究
女髮結の見たる三部の婦人……山本榮子
勝手口から見たる森村市左衛門男の暮し向
博文館

保險金受領廣告
一金五百圓也 被保險人 故鈴木秀輔
右は大正四年中蓬萊生命保險相互會社と契約致候處今般死去候に付頭書の金額同社鎭南浦代理店馬場嘉藏氏を經て正に受領仕候間此段各位に廣告候也
大正五年一月二十日 鈴木キヌヱ

恩給 立替貸金
黃金町通櫻井町入軒西四ツ角 元祖 博多屋本店 電話二三一番

資本金 壹百萬圓
政府貸下金 三十二萬九千二百圓
農工債券發行高 八拾萬圓
頭取 銀行長 白完爀
支配人 遠山熙
株式會社 漢湖農工銀行 京城南大門通二丁目
支店 (開城、春川、江景、鳥致院、太田、公州、鐵原、淸州、忠州、論山)
電話(園五五五 五二四 五五番)
當銀行は普通銀行業務も確實親切に御取扱申候

金牌受領 上酒壹升に付四拾錢
淸酒美淋燒酎 釀造元 中井酒造場
京城櫻井町一丁目 電話百七十七番
卸賣は特に割引可致候

虚々實々相下らず
政府黨と革命黨との暗殺團

支那政府が革黨の首領を殺さんと其首級に莫大の賞金を懸け密偵或は刺客を追從せしむれば革命黨員は反撥的に暗殺團を造り兩派の對峙は日一日と危險に迫り居れる現狀につき某消息通は語りて曰く『去年袁總統が自ら推して皇帝たらんとする野心を極めて露骨に表示するや所謂袁探を日本に派遣し亡命志士の密計を鎔かんと努め彼等の開中飛躍漸く募れば亡命客側また屈せず應酬する處あり昨年袁探の頭目蔣士立の狙撃せらるるや袁氏は更に彼に代はる可き頭目何允猷(三八)を急派し同時に孫逸仙以下の有力者を狙ふ可く

△決死の士三十名

を擱んで革命黨暗殺團を組織せしめ此の一味の刺客は新に北京を去るに臨み生別の盛宴を張り頻りに悲壮の歌を唱へて國賊を亡ぼさずんば生きて再び還らずと豪語し愈々一行十日本に來れるが何んぞ圖らん我が警察制度の警備は到底彼等の暴擧を許さず殊に初めて長崎に上陸して挨くも袁探と目せられし程の彼等なれば其保護警戒も頗る厳重なるより彼等も行動意の如くならず既に我邦に入り込み亡命客を狙ひつゝある者東京横濱神戸大阪京都長崎等の各地に百名以上散在し居れど今は手も足も出でざる窮地に立ち孰れも蟄居し怪しき報告書を北京に致し而して得る多額の

△運動費は酒色に

濫費し居れるは笑止の極みなり唯だ此の間稍活動の色あるは東京府下に在りて小石川小日向臺町華族の標札を掲ぐる前記袁探の頭目何允猷一派にして何には特に其の筋より保護のため常に二名の高等視察係を附しあるも何は同伺せる八名の部下を指揮して熱心に北京への情報を取纏め其生活は概して贅澤のものなり更に同府下高田村には革命黨武人派の巣窟ある事とて同村砂利場には李江德といふ袁探相對峙して住み部下六名を使役し又雑司ヶ谷に家屋を借受け六人にて共同生活を營みつゝあるは是れぞ北京より最近に派遣されし袁探の一部にして別に下澁谷に呉徹條なる者あり其他巣鴨小石川牛込等市内

△隨所に巣窟を構へ

各地の同志と電信密書の聯絡を取り居れど彼等は富裕の金力ある儘に暮夜赤坂神樂坂白山道玄坂にて豪奢を誇り現に神田三崎町玉碧館に投宿せる趙某といふは連日酒を呼んで痴轉びに居るのみ唯一週一回位長々敷密書を認め書留郵便にて北京へ發送し訪問客には肯て同志らしき人も刺客らしき人も來らず却て警戒と密貫嫌らしき

△賤しき婦人出入

するより流石の視察係りも呆然たる有様にて斯様な探偵を使つて莫大な運動費を放蕩費に費はれては袁總統が如何に大身代でも大抵の事にはあらざるべしと語り居る次第なり（東京特信）

そゞろ心巴里のお雪物語
、素性は爭はれぬ

モルガンお雪が踊る：この噂を耳にした多くの人々は、何百萬弗の持主であつて、頭の先から足の爪先まで金剛石づくめの素晴らしいお雪の姿を歴々と心に描きながら恰ど

□龍宮引揚の浦島□

を待ち設くる様な心構へを。横濱埠頭の若い騎で失望さしたのは去る十五日の事であつた『何故踊られぬ？』『それは踊らねのが當然だ』『それは又何故に』？』之には種々の仔細がある。抑もモルガンがお雪と結婚して歸米した當座は、其一族の女達から種々な批評を蒙つた、殊に美望と嫉妬の錯つた烈しい侮蔑の眸を、お雪はこの女達から始終受けてゐた、一晩餐會の席で夫モルガンは

□美いお雪の舞踊□

を一族の人々に見せた事がある、其曠の技は徒らに嘲笑の浪に捲込まれお雪は散々な目に遭ふた、不負魂のお雪も到頭我を折つて、再び米國の土は踏まじと夫と共に巴里へ逃き、夫は年一回自分用の為め紐育に歸るが能く／＼氣に掛ると見えて、毎日々々長文の電報をお雪の許に寄せて來る、今日はお前の手で縫ふて呉れた靴下を穿いて銀行へ行つたとか『今お前の寫眞に接吻した』と云つた如な

□熱愛罩めた電報□

を發したものだ、而して此愛情はモルガンの死ぬ迄も渝らなかつた、所がモルガンの兄は夫モルガンの三層倍の富豪で、プリンストンに立派な住宅を構へ、細君も子供もある其兄モルガンが先年巴里に來てお雪に會つた時から非常にお雪を愛し始めた而して夫れからと云ふものはありもせぬ要件を捺へて其隣家を買求め、年中大抵巴里に居た、夫のモルガンは昨年米國へ歸つたそれは恰度ルシタニア號の沈んだ時で現にルシタニア號で巴里へ歸らうと思ひ、切符まで買求めたが

□お雪に贈る鏡が□

出來上らぬので一船延ばした爲に死を免れた、此の不慮の椿事に心を冷したモルガンは、英國の海岸を通るは危險だと云ふので、ジブラルターで上陸し、西班牙の汽車で巴里へ急ぐ途中に心臓痲痺で殁つたのだ、お雪は夫の殁後、一時日本へ歸ると云ふてゐたが隣に住まつて居る兄のモルガンは眼の色を變へて頻りとお雪を引止めに掛つた弟が殁つても兄の俺が居りさへすれば大盤石だ後々の事は俺が充分に世話をしてやる安心して巴里に止まるが可いと云ふのである

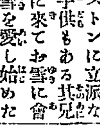
煙界之明星
愈々顯れたり
大美代
今直ぐ買れよ
富士商會（大邱）

すき燒の季節
本當に旨しく食べる煮方は

寒い日は晩餐に牛鍋が結構なものですが併しそれにも煮方がある、さる通人の曰く

「鍋を焦すな」 肉の食方の上手下手は食べた後の鍋を見れば直知れます鍋を焦付かせツ放しにしてある人は全然食方を知らない人です又割下を矢鱈に多く使ふのも食方の上手でない證據です、、、、、すきなべでは煮汁の煮立つた所へ肉を入れ片面がざつと煮えれば其をひツくり返して別の面を煮もう一度元の片面を煮ようと返す時分に食べるのが一番旨しいのです焦うして食べれば割下の無暗に要る譯がなく鍋の焦著く迄放て置く譯もない又一度焦著かした鍋では後で肉の味がよく出ない

「堅炭と鐵鍋」 肉を煮るのに瓦斯の火やアルミの鍋を用ゐては味が減茶苦茶になつて終ふ鍋は鐵鍋の重い厚いもの程よいが必ず堅炭のカン／＼おこつた火で煮るに限る軟らかい土竈炭で煮ては肉の美味を煮出して終ひます有名な牛肉店では何れも『備長』といふ上等の堅炭を使つてゐます詰り火加減は瓦斯のやうに急激でも悪し土竈炭のやうに緩漫でも悪し却々こが加減物です



△鳥肉カレー（○○○） 鶏肉を細かに切り人参は二分位の賽の目に切り軟かく茹で、後の茹汁で矢張り二分位に切つた馬鈴薯を茹で笊に上げ後の茹汁は捨てずに置きます、鍋にバタを煮立たせ肉を入れメリケン粉及びカレー粉をよく掻き混ぜ野菜の茹汁を少しづゝ加へてのばし（スープ水でもよろしい）弱火で十分間も煮、胡椒で味をつけ人参と馬鈴薯とを加へます、これを御飯の蒸炊きを皿に盛り其の上から鍔錢よくかけて出します、五人前の大凡の分量はメリケン粉とバタとは同分量でカレー粉は茶匙一杯スープ或は水が一合五勺位で胡椒はあつさり味をつけます

校にては二十六日より校内道場に於て撃劍柔道の寒稽古を開始せるが自然俱樂部員の如きは殆んど全部出席し居りたるを發見したるものあり届出に依り高陽署より警官出張檢視 便配達夫朴明鉉(三)は一月二十二日自宅に於て其叔父なる申相熙なる者 [illegible] 鍋居ないか [illegible] 檢事局へ送らる

●鮮女蹴殺さる 平安南道大 [illegible] れて馬背に當りたれば馬は驚愕して [illegible] 鮮女の一人は腦震盪を起して遂ひに其の場に即死せり

商況

東京株式特電

受渡し準備に付休會

東京債券現物特電

二十八日出來値段（前日との比較）

東洋拓殖	七二、五〇	
日本郵船	[illegible]	
朝鮮銀行	一五八、〇〇	
南滿鐵道	一四八、五〇	

東京公債直取引

二十八日出來値段（前日との比較）

甲號五分利	九五、九〇	
五分利	八二、九〇	
四分利	八三、九〇	
二回四分	九四、九〇	

深川在米特電

廿八日現在高 朝鮮米 一九〇、四〇〇 常滑米 八八、三九六 内地米 二二〇、七八四〇

東京期米特電

廿八日前場 [illegible]

大阪株式特電

[illegible]

大阪三品特電

二十八日前場 [illegible]

大阪期米特電

[illegible]

下關期米特電

二十八日前場 富 一三、一〇 中 一三、四〇 先 一四、二六〇 め止

賣買停止

朝鮮物産特電

[illegible]

雜報

●洋紙愈値上 如く本日開協定の改正値段が發表せられたり今回の改正値段は [illegible]

代々刻々變化しつゝある折柄殊に空前の混戰時 [illegible]

原價若しく夫以上の現在の内地下値何なる以つて突發的 [illegible]

●鐵類ヂリ安 [illegible]

洋鐵類ヂリ安 [illegible] 安步調 [illegible] 其多 [illegible] 百五圓若くは百圓處 [illegible] 東京筋の約定品 [illegible] 眼先尚安値見越 [illegible]

●金巾類閑散 [illegible] 細布 [illegible] 和製晒金巾 [illegible]

●蜜臘好氣配 [illegible]

約十圓方引上げ 六十圓內外の [illegible] 産額減退の模樣 [illegible]

下關相場

[illegible]

京城正米

[illegible]

南大門の廻米

[illegible]

仁川現物市場

[illegible]

仁川期米

二十八日前場 十五錢安の入 [illegible] 多 [illegible] 利喰に新規に買物 十一圓〇二錢 [illegible]

市場零聞

△前場の大混戰 [illegible]

△前場小堅し [illegible] 利喰に支へ跡徐々 [illegible] 引返し [illegible] 更に下値日先 [illegible] 幅輳し臺割れ寄付 [illegible] 投げに新規の買物 [illegible]

△續いて激戰 [illegible] 激戰を演出し立會毎に大 [illegible] 硬軟兩軍の腰入益 [illegible] 深く [illegible]

仁川米豆取引所
三巴仲買店 仁川米豆取引所仲買人 海岸町 電話長三二七三九 [illegible]

伏在十圓臺に買物 [illegible]

△當業者の米談 [illegible] 料に唯一の弱材 [illegible] 一億に二ヶ月 [illegible]

●分位の在米 [illegible] 萬決て巨額は思 [illegible] 内地米の一二百 [illegible] 年の如く移出力無 [illegible] 者 [illegible] 朝鮮米も亦昨 [illegible] 米價の前途 [illegible] 壓迫されて一段安 [illegible] 目前の材料に [illegible] 値も尚一段安 [illegible] 稍作に如何の影響 [illegible] 少く朝鮮は夏時降雨量 [illegible]

仁川米豆取引所 二十八日の三月限 [illegible]

賣買取組高 [illegible]

北濱だより [illegible]

△郵船暴落す [illegible]

△馬關筋大に賣 [illegible]

初版賣切再版近日著荷
國民新聞創刊二十五年記念出版
蘇峰文選
總クロース上製千五百頁 定價三圓五十錢 郵稅（内地書留小包料金三十錢 滿、樺、同上五十錢 臺）
蘇峰文選」は、一部の政治史也、國力發展史也、文學史也、會社史也即ち明治大正時代の反射鏡也。蘇峰學人彼れ自身の影子也。日本國民必讀の教科書也。精神的修養の糧食也。深雅なる趣味の涵養所也。所有る文章の模範也。孟子の所謂る集めて大成すこは、本書の謂也。若しこれを繙く人は必ずや斯言の至當なるを覺らむ。
「蘇峰文選」は大海の如し、鯨鯢の大より蝦蟹の細に至まで、有らざる無く、載せざる無し。其經世的論策は固より、古今内外の人物月旦や、記傳批評や、文書批判や、感想録や、隨筆雜記や、紀行文や、大珠小珠長鋪短綴、斯編に錯列羅陳す。宛かも崐崗に登りて珠玉ならるは莫く、釆鋪に入りて錦繍ならざるは莫きの觀あり。而して其内容の豊富なる、之を單行冊子こなすも尚ほ可なる者、一二編にして止まらず眞に一代の鉅觀たり。若夫れ著者識趣の超卓と、批評眼の犀利と文字の至妙とは、定論既に久矣。
本書は、過去三十年間を區畫するに、或る期間を以てし、分つて七編と爲なり。第一編は明治十九年より同廿六年に至る、平民主義並に文學鼓吹時代の作物。第二編は日清戰役期間の作物。第三編は帝國主義提唱時代の作物。第四編は日露戰役期間の作物。第五編は其の戰後經營時代の作物にして。第六編は明治天皇及昭憲皇太后の御事。第七編は大正時代の作物にして。則ち本書の大綱は、國家の出來事と相終始して一篇現代史の觀を成すと雖も、時間若くは空間を超越したる、趣致極て深き純文學的作物。亦た多々之れ有り、本書は實に近來稀有の產物と謂ふべく、又た唯一必傳の書と謂ふべき也。
本書內容見本は御申込次第進呈致候
發行所 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社代理部

朝鮮總督府蔘精
朝鮮總督府蔘精（人蔘エキス）は他にて絶對に似ねるこ出來ざる獨得の製法によるものにて他の蔘精とは全く性質を異に致し居り候に付御買求めの際は必ず朝鮮總督府の封印に御注意被下度願上候
朝鮮總督府蔘精元賣捌所 京城南大門通五丁目（電話二七七一番） 板倉支店
朝鮮總督府官營賣捌所 平壤竹典里 板倉本店

最上醬油
京城本町三丁目
田中支店醸造
電話七六四番

眼科內科 小兒科 入院隨意
京城黃金町三丁目赤門通（電話二四四三番）
院長 本田建義
本田醫院

長男文彦儀養生不相叶病氣之處廿七日午後九時死去致候に付此段辱知各位へ謹告仕候追而葬儀は明二十九日午後二時自宅出棺花町華寺前庭に於て神葬式を以て執行仕候
大正五年一月二十八日
父 壬生一夫
親戚 伊東兵五
總代友人 釜澤益太郎
伊東清七郎
松元鶴熊

越後大評定

第百十四席 早川貞水口演

御辻番の憤慨

愈々大六改め松平播磨頭殿、行列を正し、制止聲を掛け『エー控へよー、控へよー、控へよー』、チョン〳〵〳〵』木を拍つて北の御辻へ掛つて來る、此御辻を預つて居たのが御足輕老川兵左衛門、川上與惣次、田口寛十郎の五人で御坐います、以前は堂々たる供頭役、五百石を頂戴いたし五人組と云つて偉い人達で御坐いましたが、小栗美作のため、今は成下つて御足輕となられ、此御辻を堅めて居る忠義の人々で御坐いますから、老川は此制止聲を聞いてボロ〳〵涙を滴して居る、野呂が 勘『老川、何事を其やうに落涙して居る、ム、何事が悲しいのだ 兵『野呂、思ひ廻らせば泣かずには居られない、如何に何でも小栗の一子のために、吾々制止聲を掛けなければならぬと思ふと、情けなくて耐らぬ、惡盛んなる時は天に勝ち、天定まつて人に勝つの道理、小栗の惡事も長くは續くまいが、併し姦智に長けたる惡人共、此後如何なる事を爲さんも知れず、既に下野守樣の御變死、いま又三河守樣を不行跡に仕立て、まんまと御家を乘取たる小栗の一子に、何として此制止聲を掛けて敬ふ事が出來るか 勘『道理だ、それが情けなくて泣くのか 兵『然うだ 勘『市原、川上、田口、如何だ 伴『イヤ吾々とても同感だ 兵『幾ら考へても、吾々はどうせ惡人のため滅亡するもの、同じ滅亡する位なら、此御同列の中へ斬込んで、花々しく斬り死をして、初登城の行列を亂し、今日は登城のならぬやう酷い目に遭はしてやらうぢやないか、何うせ遲かれ早かれ死ぬのだ 伊『然うだ 兵『さうして先君の御側へ往つて、御奉公を致さうぢやないか 勘『それが宜い、無爲死んで行くのは詰らぬ、それぢや一つやらう 伊『行らう』一同身仕度するから老川が 兵『暫く待て、此方に理があつても非に陷るやうなことをしてはいかぬ、計略を用ひなければいかぬ 伊『成程老川の言ふのも道理だが何うするのだ 兵『それは行列が此處へ來ても、制止聲を掛けないのだ、すると供頭が行つて來て制止聲を掛けろと云ふに違ひない、其時に惡口雜言するんだ、さうすると彼等は必ず刀の柄へ手を掛けるから、尙ほ其處で怒らす、先方が拔いて來る、其時此方は刀を持たぬで、袖搦、六尺棒、捩を以て扱ひ、御役道具だけで打伏めしてやる 伴『成程 兵『そこで一人は此障子を破る、板目の踏りを探し、御提灯を踏破り、膝懸を向うへ投げ付ける、其から二三挺を擔へて置くんだ、先方を打殺さぬやうに酷い目に遭してやれば、先方が御辻へ對して亂暴を働いたから、取鎮めた迄此通り吾々は無刀で、只御道具を以て制止しましたが、先方は此の如く力を拔いて斬込まして御坐ると云へば萬一取調のあつた時に、此方は云ひ譯が立つ 勘『道理な話だ、それぢやさう云ふことにしよう 伊『其ぢや何人か一人辻を壞さう、四人で斬込むことにしよう、一人は辻を壞はす役だ 寛『そりや詰らぬ、斬込むなら皆一所に斬込まう 兵『それぢや言ひ譯が立たぬ 與『然らば老川、其方辻を壞はせ 兵『イヤ此老川が言ひ出した本人だから、己は斬込む方になる。

お聞きなさい

▲十六文を穿く少年 東京青山學院生徒齋藤文次郎(一五)はジャイアントの綽名がある程あつて身の長六尺二寸體量三十二貫あり靴の長さが一尺一寸五分、幅五寸、甲廻りが一尺一寸で十六文の大足だから何處を探しても穿ける靴がないさうだ

▲秋月と貞奴と福桃 此程死んだ秋月桂太郎は相撲や興行に失敗する度毎川上貞奴の手を經て福澤桃介から引出した金が二萬圓ばかりあつたがそれが頓死したので貞奴は大吃驚結局これが香典になりさうだとさ

▲劇場で煙草が飲める 外國では劇場内の喫煙は嚴禁であつたが最近倫敦では戰爭の影響は諸事萬端ズボラになり喫煙は何んな處でもお構ひなし貴夫人の前でも食堂でもバツバツとやつたが昨年末内務大臣から芝居での喫煙も勝手次第といふお布令が出た

▲畫生の長髮禁止 東京美術學校では生徒の風紀取締の爲め今度學生監を設け大村西崖氏が其任に當つた處第一着手として生徒の長髮と縞外套を嚴禁した、生徒等は個人の趣味上に關する事まで學校で干渉するとは怪しからぬとて、チヤカホイ連中寄り寄り協議して居るとか

▲梅毒に人骨の迷信 昨臘來千葉縣印旛郡川上村字勢田の共同墓地を發きて人骨を盗み去る者あり佐倉署で搜索の結果、同村木嶋斧吉が細井留吉に依頼され發掘したものと知れたが留吉は惡性の梅毒に惱み人骨が奇効ありと聞きて斧吉に依頼し之を藥用に服んで居たものであつたとは迷信も愈々困つた者だ

暦

一月三十日九星 舊十二月廿六日丙寅 本命九紫 南除先勝

▲九紫 秘密のばれる事有日 新事見合西方は吉 喧嘩南▲一白 迷惑なる頼まれ事有日 新事手控 旅行は吉 食倍の日入事せぬがよし▲二黒 大利の日 轉居開業入門求職金融名弘縁組定期取引等吉▲三碧 大吉有日 轉居開業入門名弘金件求職結婚等萬吉▲四緑 上運の日 轉居求職入學名弘出遊棟上新譜婆子女を迎る等吉▲五黄 天助を得る日 轉居開業婚皆進で吉女子は心美を修し立身を爲す頗る有望の日也▲六白 新事手習の事は吉衛生に注意せらるべし▲七赤 不運の日なれども新事手控の方吉 萬事長勤は妨なし▲八白 利潤の日 轉居入學求職金件建築保請婚禮 先を見越たる新事等吉

演藝案內

大正館 櫻井町 電話八七三番
廿六日より大寫眞提供 ○實況 ○滑稽人形の祭壇 ○デンマーク會社最近傑作 軍事大探偵大活劇『黑装束』全三卷 ○新派家庭劇『まごころ』全三卷 ○新派悲劇 ○維新史傳 ○泰西探偵大活劇 [illegible]

壽座 本町 電話五七八
廿八、九日替 假名手本忠臣藏裏表 大序より討入迄 鹽谷判官、早野勘平、妻とせな、百姓與市兵衛、彌作(鶴三郎)娘おかる、寺岡平右衛門(梅若)、藥師寺二郎左衛門、石堂馬之頭、斧定九郎、加古川本藏、若狹之助(光十郎)桃ノ井、高ノ師直、大星由良之助(長太郎)

黃金館 黃金町四丁目 電話二六三七
天然色活動寫眞株式會社滿鮮一手代理店 特等七十錢一等五十錢二等三十錢三等十錢
○一月廿日より提供の三大寫眞 ○泰西滑稽活動役者 ○泰西探偵大活劇 ○新派悲劇 回る春 全三卷

佐久良座 新龍山
新派自然劇團三輪寶一行 一月二十九日發題 [illegible]

浪花館 明治町 電話二六〇番
大正劇 魔の女 九場 東京落語三遊派幹部一行 [illegible]

御成座 旭町 電話二九一
二十三日目發題 人の妻 喜劇 越後獅子 [illegible]

壽館 壽町 電話一〇五〇
廣江萬愛姫家の福音 [illegible]

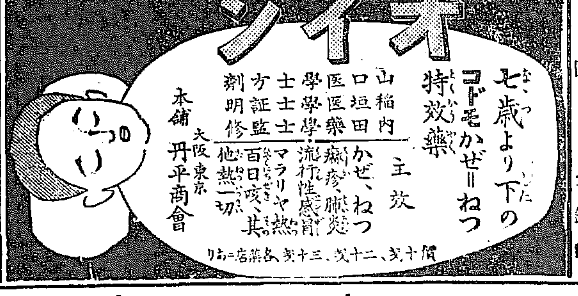
第七期貸借對照表(大正四年十二月末日現在)

借方	
諸貸出金	三一〇、五三三・七〇〇
預ヶ金	八三四・四〇〇
他店貸	一、五〇四・七三〇
有價證券	一、三六〇・〇〇〇
未拂込資本金	三七五、〇〇〇・〇〇〇
地所	一、三五〇・〇〇〇
建物	四、八〇〇・〇〇〇
什器	七〇〇・〇〇〇
假拂金	七四四・九四五
金銀	一一、一七五・三五五
合計	七〇八、〇〇三・一三〇

貸方	
諸預金	六七、九六〇・九五〇
支拂送金手形	一二五・二一〇
借入金	一一五、七二七・九五〇
本支店未送金	六五九・二三〇
他店ヨリ借	五三・〇二〇
資本金	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
法定積立金	三、〇〇〇・〇〇〇
別途積立金	四、〇〇〇・〇〇〇
未拂配當金	四〇〇・八六〇
前期繰越金	六、一一五・五九〇
當期純益金	九、九六〇・三二〇
合計	七〇八、〇〇三・一三〇

一金九千九百六十圓三十二錢也 當期純益金
一金六千百十五圓五十九錢也 前期繰越金
合計金一萬六千〇七十五圓九十一錢
此配當計算如左
一金二千圓也 積立金
一金六千二百五十圓也 諸配當金(年一割)
一金四百九十八圓 重役賞與金
一金七千三百二十七圓九十一錢也 後期繰越金

右之通候也
大正五年一月廿四日
株式會社 慶南銀行
頭取 李圭直 專務取締役 尹相殷 取締役 張禹錫 同 大池忠助 同 迫間房太郎 相談役 文尙宇 支配人 井谷義三郎 監査役 全錫準



美人
筋肉諸病 マッサージ 東京堂
主任 針谷良太郎
釜山西町四丁目西本願寺前通 午前 自宅 午後 出張
○○密話春夜見あかぬ珍品内容云わぬが花ー三錢切手五枚送れ直送す 大阪市南區瓦屋町四番丁 大賞堂

りん病
消渴で困る方多年の慢性も
自宅で人知れず秘密に治るフシギの妙藥あり只一劑を試よ切手三錢送れ其妙藥と自宅療法の詳細を報ず
名古屋市有かじや町 武藤龜吉

質並に新古和洋服商 季節向恰好品多數取揃有之候 大邱府東城町二丁目 (カ) 伊勢屋支店

十二指腸蟲 患者の福音!! 往復ハガキにて申込の諸彥に内容説明書無代進呈いたします 大邱府東城町二丁目 水田藥院 電話四六三番

米國ミツチエール式 嶄新流行形 洋服調進所 針進堂 大邱榮町 深切と叮嚀勉強は論より證據 是非一度御用命の程伏而願上候

茶代廢止 慶北醴泉邑內 旅館 伊賀屋

新酒大賣出し 本年は特に原料を精選し釀造仕候間喇酒として是非一度御試用賜はらん事を希上候 陸軍御用達 大邱幸町一丁目(電話三五一番) 丸三合資會社 振替京城三八一番

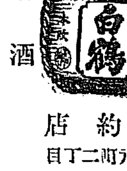
慶北道廳 東拓會社 御指定 旅館 加賀屋 慶北尙州 館主 大岸廣 熟練の料理番を増雇し特に御來客の待遇に注意致させ候へば何卒御愛顧の程奉願上候

無双醇良清酒 衛生無害 品質無双

首藤合名會社吟釀造
精白米小賣卸 キリンビール サッポロビール 醬油各種 甲萬 各種 シトロン 三矢布引サイダー 各種
朝鮮發賣元 首藤京城支店 黃金町(電話一一七一番)

婦人科 產科 入院分娩應需 京城旭町壹丁目 院主 衣笠茂 中央婦人病院 (電話二三四〇番)

醇良 清酒



特約店 大邱元町二丁目 幸山出張店 電話二五八番

確實迅速取扱叮嚀 客荷 馬車運送業 大邱幸町(電話二二七番) 大野郵便馬車營業所

東京精工舍製時計 特約販賣

營業品目 金銀時計 金銀眼鏡 蓄音機 純金指輪 寶石入指輪 萬年筆 懷中電燈
大邱元町一丁目 東京堂時計店 電話 振替京城二〇三

定價 金參錢

朝鮮煙草株式會社
新年大賣出し
御幸運の方に 金側時計や自轉車が當ります

賣出品名 ホワイト、コスモス、クックー、パラダイス、プロペラー、ヴアイオレット
賣出期間 自一月 日至二月末日
抽籤期日 三月末日
抽籤場所 京城本社
景品引換場所 釜山元賣捌所
景品引換期日 四月五日より四月末日まで
景品方法 右賣出品中何れの品にても一ボール御買求になれば即時に一枚の抽籤券を御渡し致しますから御忘れなく福の神を逃さぬ樣御注意を願ひます 抽籤券御受取の上は抽籤期日迄御所持下され當日抽籤の上當籤番號を發表しますから御當籤の景品は前記元賣捌所に於て直に景品と引換致します

景品種目
一等 十八金側懷中時計(一個宛)二本 ランドシップ又イグーバ號
二等 自轉車(附屬品一式)(一輪宛)二本 コスター付
三等 上等毛布(二枚續)(一組宛)三本
四等 銀側時計(一個宛)八本 瑞西製三枚蓋アンクル石入
五等 桐箱入飾付懷中鏡(一個宛)十五本
六等 上等皮製中折紙幣入(一個宛)三十本
七等 朱塗金蒔繪葉書入(一個宛)百本
八等 懷中卷煙草入(一個宛)二百五十本
九等 上等タヲル(一枚宛)五百九十本
十等 新製兩切煙草コスモス又はクックー(二十本一包宛)二萬四千八百本
空籤一本もなし

朝鮮煙草株式會社釜山元賣捌所 小田商店 山西義一商店 金子安一商店 赤坂正一商店 中野健造商店 (いろは順)

定價 金貳錢

京城日報
二十九日朝刊
(第三千十四號)
定價 本紙 一部金二錢五厘 一ヶ月金五拾錢 郵税共三ヶ月金壹圓九拾錢 一ヶ月 ▲郵送に限り
廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲四號活字一行金壹圓武拾錢 ▲三號活字一行金武圓 ▲特別欄內 ▲普通欄內
發行兼編輯人 奥田直毅
印刷人 巻口政太郎
發行所 太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話番號 編輯部 二二四番 營業部 二二番 振替貯金口座 京城 三〇〇番

總督の諭告と吾人の覺悟

三 教育の普及

教育は國の基にして成果の如何は凡百の施設に多大の影響あること言を俟たず。朝鮮に於ける教育事業は併合後の實施以來大に其歩を進め[illegible]の觀る可きものありたりと雖も、然かも尚ほ遺憾の點尠からざりしを以て、總督は更に教育制度確定の必要を認め、深く研究調査を重ねたる結果、明治四十四年八月朝鮮教育令を發布し朝鮮人教育の方針を確立して其組織系統を明にし、尋で諸學校規則を制定すると共に、一方内地人各學校の監督統一を期し校則を制定改正して以て内鮮人教育の基礎を確立したり。

從來朝鮮の教育界には相反せる二個の傾向あり。一は夫の書堂の如き讀書、習字を主とし進むで經書を講究するも、何等處世實用に適する科目を教授せざる守舊的教育にして、一は或種私立學校の如き、徒らに高尚の學科を課し、年限を長くし、以て高等教育を授け得たりとして得々たる[illegible]教育なり。兩者は孰れも眞に朝鮮の教育を思ひ、子弟を愛する者の憂慮措く能はざる處なりき。茲に於て總督は朝鮮教育令の旨趣に從ひ、主として帝國臣民たる可き能力品性を涵養し、生活に必須なる知識技能を授くるを以て本旨とし、從來の宿弊たる空論横議を事とし遊惰放逸に流るゝの陋習を矯め、勤勉力行の氣風を鼓吹すると共に、常に實業趣味の助長に努め、以て實用に適する人材を養成せんことを期せり。斯くて朝鮮教育令は實施後日尚ほ淺しと雖も、其制度の趣旨能く朝鮮の實狀に適せると、教育の組織程度能く鮮人生活の實際に切實なるとは諸機關の設備と當該職員の指導誘掖とに俟ちて其効果既に顯著なるものあり、年々入學志願者を激増し、殊に兩班儒生其他上流人士にして從來徒らに舊慣を墨守し、新教育を喜ばざりし者も亦漸次新制度の旨趣を了解し、進むで其子弟を公立學校に入學せしめ、又は私立學校より轉校し來る者頗る多きを加ふるに至れり。就中總督の鋭意普及を圖れる初等教育の如きは其効果最も顯著にして機關の擴張と[illegible]に比年入學者を激増し、併合當時に於ける普通學校數は僅に一百校にして其生徒數一萬五千を出でざりしもの、今日に於ては公私立を合し四百十五校を算し、生徒數亦六萬四千名を算ふるに至れり。全道各府郡の邑内は勿論、山間僻地と雖も優に新教育の恩澤に浴しつゝあり。而して普通學校の要旨が[illegible]る處は、其目的に於て國民性の涵養と國語の普及に重を置き、又土地の狀況に依りて修業年限を短縮することを得せしめ、且つ學科課程を一層簡約せる點にあり。而かも普通學校は必ずしも上級學校に對する豫備教育にあらず。日常必須の智識と技能を授け、卒業後直に實務に就かしむるを以て教養の方針となせり。之當時勢民度に適應せる教育を施さむとする旨趣にして總督の最も思を致せる處なり。

朝鮮と滿蒙經營

在東京 一記者

▲我大日本帝國の亞細亞大陸經營は我朝鮮を以て其趾と爲し、遼東より滿洲蒙古に向つて進むといふ順序にして、而して其本末體統を正して、而して後に其政策の一貫と其施設の完全とを得て期すべきなり。即ち是れ我帝國の今日に於て確立すべき所の根本政策なり。

▲尤も我遼東租借南滿洲鐵道獲得の事は、我朝鮮の領有に先つこと若干年の前にあり。從て我朝鮮經營と、關東都督府の事業と、南滿洲鐵道事業とは、三者各々相獨立して、其事に從へるの姿ありと雖も、是は專ら一時の現象なりと云ふべく、遼東經營は鐵道事業と相離るべからざるごとく、此二者亦我朝鮮の事と其趣趣を共にせざるべからざるは、今日に於て爭ふべからざるの事實にして、其地理上の關係は言ふまでもなく、其社會事物一として一統の和を示さざるはなきなり。

▲且我朝鮮は其境域内に、多數の母國民を移入すべき餘地甚だ饒かなると同時に、我朝鮮人亦他處に出で勞作に從ふべき餘力に富み、現に滿洲北部其他各地に、我朝鮮人の移居して其功を成すを見ざる所なく、南滿洲鐵道外の水田は、朝鮮人の經營に屬するもの其六割六分を占め、支那人は一割八分日本本土人は六分と云ふ割合なりと見ても、我帝國の滿蒙經營の原動力たるべきものは、我朝鮮人なることを推斷し得べきなり。乃ち人口經濟上より云はば、我帝國本土は其善良なる移民を我朝鮮に對して、其產業の上に新たなる發達を圖り、我朝鮮人は更に自ら進みて滿洲北蒙諸地に入り、各々其處を得て其功を全くすることを期するにあり。

▲若し夫れ交通機關の施設及び諸般產業上の經營に至りては、我帝國の亞細亞大陸經營の基趾の、我朝鮮にあることは、自明の事實にして、其規模既に定り其發暢日を指して期すべきものあり。此基趾に據り、其の展開の方を定め、其力を量り其功を積みて進む、猶ほ科に盈ちて而して後に行くの水の如きものあるべし。之を英佛諸殖民國の成績に鑑みるに、大凡對外經營なるものは、先づ其の據りて以て基趾と爲す所の地點を定め目的の經營、之に原いて擧がるを期す。其の施設に成形あり統一ある、則ち是に是由る。顧みて我帝國民果して此に思ひ至れりや否や。

▲世間或は關東都督府と南滿洲鐵道會社と相離齬するあるを説き若くは、滿蒙經營の根蔕如何を疑ふものありと雖も、是は無益の論議なり。我帝國の大陸經營の體統を正くし、我朝鮮を其趾と爲し、其統一と完全とを圖らば、其調和開熟諸を掌に指すがごときものあるべきなり。或は朝鮮、關東州、南滿洲鐵道及び最近に於ける滿蒙經營なるもの、皆各々其來歴を異にすることを云ふものあれども、是は甚だ謂れなきの疑念たり。我帝國の作爲自ら次第あり。其利權の獲得亦其の時を同一せずと雖も、既に之を獲得し既に其作爲を經りたる後は、總て是れ我帝國の事功にして、渾然一化亦相持異する所あるべからずして國家の根本政策は其大體を統べて、之を定むるの外なきなり。

噫子爵高永喜

（高子の祖先は日本人なり）

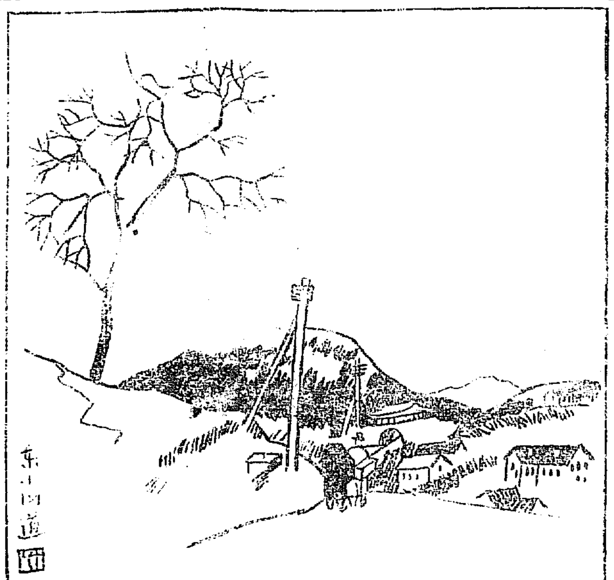
小松緑

古今東西、豪俊の士何ぞ限らむ、温良の君子、高君永喜の如きは稀なり。君資性明哲、玲瓏として玉の如く、醇乎たる其の風丰人をして一見親愛の念を禁ずる能はざらしむ、然れども君は決して片々たる一好爺に非ず、其の世に處し、事に當るや所信を斷行して些の凝滞を見ず、亦以て其の操守人に優るものあるを知るべきなり。

君薨ずるの時歳六十八、爵位勳等を經來りて遂に從三位勳一等となる、子孫蕃殖、闔家敬君賢明典雅乃父の箕裘を襲ぎて愧づる所なし、闔家其に遺憾なしと謂ふべし。君十七にして副司勇となり、卅五にして翰林となり、轉じて郡守となり、參議となり協辦となり、明治二十八年及び三十六年の兩度日本駐劄全權公使となり、其の後平理院裁判長、經理院卿を經て法部大臣に任じ度支部大臣に轉じ、併合の際多大の功勞ありたるは世人の今尚記憶する所なり。

予始んで日鮮兩族交渉の史實を詮索し、新羅の歸化人を移して新羅郡を置き、高麗の移住民を集めて高麗郡を設けたるは我が古史の明記する所なり、然るに日人の朝鮮に移りたるの事蹟に至りては朝鮮史の載する所僻かく詳かならず、但た新羅始祖の宰相瓠公と故高子の祖先とが日本より來りたるは、其の證左頗る明確なるものあり、瓠公の事は茲に要なし。高子は濟州島に生れたるを以て、其の一家、近代迄は同島に永住せしや疑けし、君の系圖に據れば其の祖先は耽羅の高乙那なり、耽羅は即ち濟州島の舊稱にして其の古蹟は與地勝覽に悉しく、高乙那の由來は高麗史古記に詳かなり。予は君の德風を仰ぎて、其の逝去を悲む、而して君の祖先が日本人たるを想ひ起して一入追慕の念に耐ゆるなし、故に高麗史の一節を和譯して、聊か自ら慰め且故人在天の靈を弔せむとす。

昔三神人あり、長は良乙那、次は高乙那、三は夫乙那是なり、相與に遊獵す、一日、一大函の浮んで東海より瀕るを見る、就いて之を開けば紫衣紅帶の一使者あり、青衣の處女三人及び駒犢五穀の種子を齎らして來る、曰く我は是れ日本國の使者なり、吾王此の三女を生む所たり、西海島に神子三人を降し將に國を開かしめんと欲するも配匹なし是に於て臣に命じて三女に侍し來らしむ、宜しく配を爲し大業を成すべしと、使者乃ち雲に乘じて去る三人歳次を以て分つて之を娶り地を別つて三都と爲し各々之に居り五穀を播き且駒犢を放ち漸く富庶に趣く、十五代の孫、高厚高清等舟を造り海を渡りて新羅に行き耽津に泊す、恰かも新羅の盛時に會す、厚等到るに及び、新羅王大に喜び、其の來泊せる耽津と新羅に因みて耽羅王に封ず。其の子孫蕃盛を致せり。故高子爵は即ち其の末裔にして王家の後なり



冬　前川千帆筆

支那の鐵道

總括概觀

（芸）

支那の鐵道を其の各線につき略述し今結論に入るに先だち朝鮮銀行が大正三年七月現在の既設又は未設線に屬するものを調査したる内より要項を摘記し參考に供せむ

大正三年七月現在の支那鐵道に在ては總計八十五線を數へ內既成に屬するものは十八線、未だ工事中に在るもの七線にして、其餘は單に豫定線たるに止まり、其實現の日固より豫測すべからざるのみならず中には其豫定たる唯支那官民の空想に過ぎずして其敷設の見込なきもの亦尠からず、右各鐵道の資金關係を見るに其既設たると工事中たるとを問はず支那自身の資本に依て敷設せらるゝものなきに非ざるも其大部分は直接外國の經營に係り若くは外國借款によりて敷設せられ又は敷設中に在るものと云ふを得べし、即ち左の如し

		線數	哩數
既成線	外國經營線	[illegible]	[illegible]
	外國借款に依り支那官有線	[illegible]	[illegible]
	支那官有線	[illegible]	[illegible]
	支那民有線	[illegible]	[illegible]
	計	[illegible]	[illegible]
工事中の線	外國經營線	[illegible]	[illegible]
	外國借款に依り支那官有線	[illegible]	[illegible]
	支那官有線	[illegible]	[illegible]
	計	[illegible]	[illegible]

次に右外國經營線を其所屬國に依り比較するに其哩數に於て露國を第一とし日、佛、獨、英之に次ぐ即ち左の如し

		哩數	
既成線	露國	一、〇七八哩	（東清鐵道）
	日本	六九一	（南滿洲鐵道線）
	佛國	五九二	（滇越鐵道）
	獨逸	三一〇	（山東鐵道及現在日本の管内にあり）
	英國	二二	（廣九線の一部）

更に外國借款に依る支那官有線の哩數を其借款國別に掲ぐる時は如左

		哩數	
既成線	英國	一、三三二哩	（京奉線、滬寧線、道清線、廣九線の一部、津浦南段線）
	英佛	[illegible]	
	日本	[illegible]	
	計	[illegible]	
工事中の線	[illegible]	[illegible]	
	計	[illegible]	

即ち既成線に在りては英國を第一とし佛、獨、露、日之に次ぎ工事中の線にありては白耳義を首さなす、前段に述たる如く其實現の豫定線は今より豫測すべからずと雖も其の中の協約あるもの若くは借款契約あるものは其成立比較的確實なるを以て此種に屬する豫定線を擧ぐる時は其數二十を數へ之を國別さする時は左の如し

國	線數	哩數
英國	七線	[illegible]
日本	[illegible]	[illegible]
白國	[illegible]	[illegible]
獨逸	[illegible]	[illegible]
英米	[illegible]	[illegible]
佛	[illegible]	[illegible]
計	[illegible]	[illegible]

京日詩壇

○淺暮東友　小永井槐陰
往事如夢幻。歳華今將窮。故人其何似。一醉游物外。孤客歸桑梓。恬然處室中。占昔附飛鴻。[illegible]。反[illegible]圃術者。漫雪高里風。
評曰、滿肚牢騷、不覺發露。

○對雪憶舊遊　安永春雨
獨掲簾帷看老松。銀峙颯爽秀嚴冬。曾王化及南日。雪壓新高第一峰。
塔華壓竹映朝暉。獨坐閑窓梅送薰。昔天城山下路。春風二月雪紛紛。
評曰、配雪以歳寒三友頗有姿致。

○和久芳徹漳君見寄韻却呈　高橋空齋
點滴聲聲和筑琴。支頤欄曲對枯林。寒添爐炭時温酒。悶遣題詩聊解襟。貧猶慕古可知志。廿不如今。鄭箇忽。莫道。寒天邊到。多謝新篇金石音。
自評曰。句句天眞爛熳、絕無欠陷之疵。

株式會社 第一銀行 第三十九期營業報告
貸借對照表
負債ノ部
一資本金 貳壹、五〇〇、〇〇〇
一諸積立金 [illegible]
一諸預金 [illegible]
一定期預金 [illegible]
一當座預金 [illegible]
一諸預金 [illegible]
一仕拂送金手形 [illegible]
一銀行券消却資金 [illegible]
一本支店間未達勘定 [illegible]
一他店勘定 [illegible]
一未拂配當金 [illegible]
一前半季繰越金 [illegible]
一當半季純益金 [illegible]
合計 [illegible]
資産ノ部
一未拂込資本金 八、〇六武、五〇〇
一諸貸出金 [illegible]
一定期貸 [illegible]
一當座貸越 [illegible]
一割引手形 [illegible]
一荷爲替手形 [illegible]
一國債及地方債證券 [illegible]
一株券及社債券 [illegible]
一他店勘定 [illegible]
一地所建物什器 [illegible]
一新築費 [illegible]
一預ケ金 [illegible]
一金銀在高 [illegible]
合計 [illegible]
利益金勘定
一當半季純益金 [illegible]
一前半季繰越金 [illegible]
合計 [illegible]
内
一積立金 [illegible]
一役員賞與金 [illegible]
一行員恩給及退職給與金 [illegible]
一舊株配當金（年一割） [illegible]
一新株配當金（年一割） [illegible]
一後半季繰越金 [illegible]
大正五年一月 東京市日本橋區兜町一番地
株式會社 第一銀行
頭取 男爵 澁澤榮一
取締役 男爵 三井八郎次郎
取締役 佐々木勇之助
取締役 熊谷辰太郎
取締役 日下義雄
取締役 佐々木愼思郎
右各項調査ヲ遂ゲ其正確ナルヲ保證ス
監査役 土岐横
監査役 尾高次郎
追テ取締役佐々木愼思郎任期滿了ニ付改選致候處再選重任仕候
京城支店支配人 西村道彦

第一生命保險相互會社
外交員 淺海浩
右の者依頼解職す自今本社に關係無之候此段廣告候也
大正五年一月廿八日

朝鮮總督府濟生院
當院盲唖部ニ於テ本年四月入學セシムヘキ盲唖生徒ヲ左ノ通募集ス入院希望者ハ一月二十九日以降發行ノ朝鮮總督府官報ヲ見ルヘシ
一給費生 盲唖男女 十一名
一自費生 同 十一名
大正五年一月廿九日

寫眞
寫眞出張撮影 寫眞銅版、亞鉛凸版
最も熟練せる技術を以て最も迅速と叮嚀親切を旨とし御高需に應ず
京城日報社 寫眞製版部

●特價發賣申込の好時●
銃獵之趣味
青坡 吉村君潔著
見！銃獵の手引＝多獵を希望せん人＝
朝鮮の獵地を知らんとする人
銃獵の壯快なる事は何人も知る處ならんも徒らに心酔して遂に身命を損う者多きは畢竟するに獵家の不注意より來る處なり這は其の銃器を悉知せざるが爲なり本書は銃器の如何なるかを説き且つ著者多年の經驗より銃獵の趣味と修養を併せて詳説せり
獵犬の使用と善惡を説き朝鮮の好獵地へ案内せる處始めて「スポーツマン」たらんとする人は元より獵家必讀の好著たり
定價四十錢 特價金三十錢（郵税を除く）
發行所 京城太平町一丁目 振替京城三〇〇番 京城日報社

朝鮮銀行
當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候
京城
電話（長）一一、三三一、三三三、六一一、一二六一　振替貯金口座 京城 三三三番
支店出張所 東京、大阪、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、長春
右ノ外內外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

二月號の美觀
東京本町 博文館 發行 全國書店
女學世界
定價 金二十錢 郵税二錢
▽女の仕事と富の分配…河上博士
▽婦人と職業問題…上田博士
長篇小說 若き生命 德田秋聲
毒蛇 內藤千代
▽北米汽車の旅…穗積律子
▽シドニー見聞記…貿易商の妻
▽須磨に入水したる若き妻の遺書
▽閨秀談話 加賀の千代…水鷄
▽十八年間病蓐に仕へたる村娘日記…田園小品 孔雀きみ江
▽龍宮物語 歡樂の臺…長田秀雄
▽死の海に漂ひし恐ろしき思ひ出
▽田舍の婚禮…ときはぎ
淑女畫報
定價 金廿五錢 郵税二錢
▲竹田宮家の御榮え
▲敘勳女子教育家の祝賀會
和氣靄々…（名流夫妻）
▲外相の家庭と文相の家庭
▲太平洋上坤洋丸の假裝會
寫眞 山椒太夫
小說 ▲オフセット二色版（數頁）
▲懸賞寫眞『女學生の行方』
嫁と姑の問題…中島文學博士 與謝野晶子
▲あい子さんの遺書を讀みて
▲夫が入獄中の煩悶と覺悟…板倉夫人
▲家庭小說 須磨の家（連載）…渡邊默禪
▲獨身生活三十年間の苦患…五島千代槌
▲何事も女中任せの私の家庭…水主生
▲忠臣藏物語 仇家の秘密…雪曙樓主人

優等酒清
菊嘉
福岡縣三井郡山川村
醸造元 富安本店
京城永樂町二丁目
發賣元 富安京城支店
電話一〇三九番 振替口座四三九番

▲二十八日後場 大阪前〆三十三[illegible]後場三千[illegible]丁度の大阪貸地實中出來不申先十號か十九錢さ二錢安に[illegible]する賣物多く〇五錢さ跳ね返して今度◎買に[illegible]一萬石の大商內行はれたるより形の下落を受けて十圓九十九錢と寄付[illegible]

▲後場形勢一變 前場強硬の[illegible]先なるも大阪[illegible]

▲山ヶ防大に賣る [illegible]

▲大商內[illegible] [illegible]

三月限 四萬九千九百五十石

露太公關門海峡御通過

露國太公殿下御一行は豫報の如く御來朝の際と同樣の順序にて二十八日午後五時無事關門海峡を西に向つて御通過ありたり關門兩市の官民は三千隻の汽艇にて盛んなる歡迎送を爲したり(門司特電)

還元問題と政府の態度

關係の一人曰く兵器賣却問題に就ては貴族院に於て條件付豫算可決に決したるが這は先例もあり單に這回の場合は意見相違せしのみに過ぎず次に還元基金問題に就ては政府飽迄原案を維持す可く若し之れが爲め豫算不成立に終るあらば須らく總辭職を爲して玉碎を期す決心なり(東京電報)

革軍自流井永川占領

情報に依れば革命軍は自流井及永川を占領せり而して成都より歸還せる一稅關吏は公式に語りて曰く四川省より過日重都に到着せる軍隊は既に自流井、永川に達し秩序維持に努めつゝあり尙ほ二十七日重慶發の報道に依れば同地は靜穩にして形勢に變化なしと(上海電報)

南軍意氣大に振ふ

北京情報に依れば南軍は北軍を永寧以北に追擊中にて北軍の意氣大に振はず叙州占領中の南軍は秩序整然毫も侵すところなく北軍の之れを奪還すること蓋し至難なるべし(東京特電)

各派交渉會 協定提案承認

上院各派交渉會は二十八日午後零時貴族院內談話室に於て開會し軍器問題に付き研究會、幸俱樂部、土曜會の三派に於て協定したる提案即ち豫算議決に際し希望を附するの件を協議したる結果異議無く之を承認する事に決定し一時散會したり(東京特電)

聖上葉山行幸

天皇陛下には御豫定の如く二十八日午前九時十五分宮城御出門御避寒の爲め葉山御用邸に行幸あらせられたり(東京特電)

下院請願委員會

下院請願委員會は二十八日午前十時開會日露戰役に於ける擊沈船損害救助の件、在外賣春婦取締法制定の件、按摩業を盲人の專業となすの件外二十六件を採決に決したり(東京特電)

中村博士以下敍勳

二十八日東京帝國大學工科大學教授中村工學博士以下三百名の文武官に對し授勳敍勳の御沙汰ありたり重なるもの左の如し(東京特電)

敍勳二等授瑞寶章(各通) 工學博士 中村達太郎 / 文學博士 中島力藏 / 文學博士 上田萬年

敍勳四等授瑞寶章 總督府判事 城數馬

東拓移民(二)

移民各自の成績(2) 江景出張所管內

▲耕種改良と收穫 調製の改良

一般栽培法につき其成績の顯著なるものを擧ぐれば

(一)苗代を短冊形にすることにして此方法は從來內地に於て充分其效果を認むるところなるを以て各自移住の初年より之を實行し苗の成育及び害蟲驅除の便に資する所尠からず

(二)耕鋤に對し春秋二回の鋤き起しをなし田には馬鋤を用ゐ畑にはレーキを使用して入念の整地をなすは從來朝鮮式農法に比し格段の進歩と云ふべく殊に之を勵行するは大亦面に於ける單獨移民と叢原團體、江景團體等なりとす

(三)植付に正條植を實行するは耕作面積割合に廣く一般勞働力に餘裕なき移住民にとり頗る困難とする所なるにも拘らず前揭の如く總數二百二十五石中約五割の實行を見るは著しき進歩なりと云ふべし

(四)稗拔及び除草の勵行は移民一般に及び就中稗拔は苗代田に於て實行したる上更に本田に於て之が絕滅の法を執り除草は少くも三回は之を行ふ者多きは四回に及ぶものあり

(五)病蟲害の驅除に對しては何れも苗代田に於ける螟蟲の採卵より本田に於ける白穗の拔取り浮塵子の石油驅除に至るまで熱心之に從事するの風あれども未だ鮮農一般に普及せざるが故に實效顯著ならざるは遺憾なり但し鮮地は寒氣烈しきため病蟲の發生比較的少きは耕種上の大幸なり

收穫物の調製に對しては從來鮮農の行へるが如き扱落し法と異なり總て稻扱器を用ひ叉莚を廣きて土砂の混入を防ぐが故に獨り功程の優れるのみならず籾の品質を良好ならしむる點に於て大なる改良なりと云ふべく尙爽雜物を除去する爲め從來の風撰を改め唐箕を使用する等の方法を講じ居り從て籾の値段も鮮農の籾に比し約一割高に賣却しつゝあり

▲灌漑及土地の改良

移民割當地は大體灌漑の便ある故特種の改良を施したるものなしと雖江景團體が政府並に會社補助の下に長堤の改修をなしたるを著しき例なりとす其他汲水上に多少勞力を要する移住地に對しては會社より揚水車を貸付たるもの卅四臺に及び各自の購入携帶したるもの亦數十臺あり該揚水車は從來朝鮮式の汲水器を使用して非常の費用と勞力とを消費したる不便を除き鮮農者にとりては將に一大福音とも云ふを得べく近來舊式器の漸く跡を絕ち普く改良揚水車を使用するに至れるは移住者の指導與かりて力あるものと云ふべし

◎中村都督出發 中村關東都督は二十八日午後五時三十分出發京城に向ふ(大連特電)

◎菱田內務部長上京 菱田咸鏡南道內務部長は先帝陛下の御眞影を捧持し二十八日夜入港の咸鏡丸にて來元し官民多數の出迎へを受け二十九日朝出發上京の筈(元山特電)

最近滿洲事情

▲段將軍と張師長 平山關東都督府陸軍參謀談

南方の革命、北方の叢匪が滿洲に影響したい譯もなからうが暫時に開く許りたのだから何の程度迄事實なのか鳥渡解らぬ何しろ奉天では上將軍段芝貴氏と第廿七師長張作霖氏との仲のよくない事は有名で最近の噂では段上將軍が張將軍を蒙古方面へ轉任させ樣としてゐると云ふ事だ段上將軍は袁大總統の片腕とも目せられてゐる總統派で無論袁總統の信任も厚い譯だ信任厚ければこそ前清朝發祥の地なる滿洲に上將軍として封せられてもゐる譯である然るに張將軍は人も知る馬賊の出身で然も滿洲に於て作つた地盤なのだから滿洲に在ては其勢力もあらうけれど他に行ては矢張り駄目なのだ頻りに噂されてゐる樣に崇古に轉任されるとすれば當人に取つては非常に貶謫される譯なのだから隨つて當人も其れを不平に思つてゐるらしい若し强ひて轉任させ樣とでもしようものなら如何なる事を仕出かすまいか目下滿洲に革命黨や宗社黨の連中が隨分侵入してゐるらしいと云ふ噂だがまだ表面には別に顯はれてゐない段上將軍の身邊の警戒は極めて嚴重なものだと云ふ事だ

▲軍用機車の試驗

滿洲駐屯軍では最近に於て軍用自動車と軍用飛行機の試驗がある筈だ何でも自動車は本月末に大連に着いた來月六日から旅順を出發し奉天、鐵嶺を經て長春あたり迄の長距離運轉飛行が初められる譯なのだが道路は幾頃調査した處數箇所の修理を加へればいいと云ふ事だ滿洲は大抵河に橋が無いので河の渡渉は結氷を待たなければならぬ處が今年は非常に暖かで一度結氷したのも溶けてしまつてゐるから今の處では其れが一寸駄目らしくもある飛行機も自動車と前後して到著するのだが飛行機こそ內地の樣に氣流の變化の甚だしい處でやるよりも滿洲の樣な處でやるに限ると思ふ殊に滿洲は嘗て實戰した處でもあり內地に比較すれば餘程實地演習にも近い樣にも思はれる

府記念事業

京城府は御大禮記念事業として記念植林を設置することに決定し既に過般龍山桃山に於ける國有土地拾四町六反歩を當局より讓與を受け植込式を終はり標杭を打ち込みしまいし時恰も嚴寒に向ふ爲め今春に於て實際の植栽を施すことになり居たるが府は相當の經費を豫算して愈々赤松六萬五千本を植ゑ付くることに決したり而して之れが植林に對しては相當の保護手入を加へ目的としては模範植林たらしむると同時に一面土地の風致を添へ兼ねて行く〱は府の基本財產の幾分とも爲し永久に光輝ある御大典を記念すべしと

慶北綠肥成績

慶北道にては近年盛んに紫雲英の栽培を獎勵しつゝあるが此の植物は地中の根毛に根瘤菌を寄生せしめ其の働きに依り空氣中より多量の窒素を攝取利用し人造肥料と同樣の效果を收め得るものにして同地方の如く薄資の農家多きところに用ふる肥料としては最も有利なるものなり然るに鮮地の土質には根瘤菌の寄生なき爲め其の寄生を爲さしむるには前年紫雲英を栽培せし土を混交して翌年再び植栽せば充分なる根瘤菌の寄生を見ることを得るものにして一反歩に栽培し三反歩の肥料となすに足り其の效果は優に五割以上の增收を見尙ほ南鮮各地に於ては在來の蜜蜂は內地以上に現存するに見ても養蜂に適するを證するものにして盛んに紫雲英の栽培を獎勵し副業として養蜂を營めば紫雲英の花蜜を採收するを得べく依つて勸業係にては內地より種子を購入し種苗場に於て植栽の上種子を各郡に配布し之れが栽培の獎勵を爲しつゝあるが昨年度の成績左の如し

郡別	播種期	栽培反別
達城	自九月十一日 至九月廿一日	五、五〇〇
慶山	自九月一日 至九月四日	九、二〇〇
金泉	自八月十七日 至八月廿九日	九、九〇〇
尙州	九月二日	一、〇〇〇
榮川	九月十一日	一、〇〇〇
靑松	九月上旬	一、〇〇〇
義城	九月十二日	一、二一五
星州	九月七日	一、〇〇〇
高靈	九月上旬	二、〇〇〇
慶州	九月上旬	四、七〇〇
盈德	九月廿三日	四〇、九二三
安東	九月十三日	一、〇〇〇
淸道	九月廿一日	三、〇〇〇
漆谷	自九月九日 至九月十四日	八、〇〇〇
迎日	自十月一日 至十月二日	二、二〇〇
十四郡外	自八月十一日 至十月二十日	九一、九〇八

釜山經濟狀況

朝鮮輸出米の過半數を占むる釜山は米價の高低出穀の多寡に依つて金融狀態に變化を及ぼす事恰も影の形に添ふが如し昨冬十一月下旬突然米價の好況を示すや一般の人心頓に賣方に傾き當地在庫米は勿論各地出廻米に至るまで一つ時も釜山に停滯せず

▲大阪東京方面に賣捌かれ各倉庫會社全く空隣に陷りたり之れ荷主側の財力逼迫より賣放ちの爲に出でたるに非ずして先高を見込んで持堪へ一大失敗したる前年の轍を恐れたるに外ならざるなり又一面には米價の騰貴に伴ひ一般の景況を張せしを見透かしたるため何れも年になき仕入をなしたる各移入商は荷爲替取組の繁忙に行はれ其額亦巨額に上り各銀行は繁忙を極めかゝる狀態にて十二月中旬米價低落し來り今日に至るも依然として軟弱氣配を保ち玄米は元より白米すら

▲輸出絕無の情態を持續しつゝあり從つて各銀行並に金融關係は一時に閑散を來し恰も大風の後の如く極めて沈默の狀態を呈せり之れが反影として年末より年頭にかけて倉庫に入荷するもの激增し各倉庫會社全く充滿し尙五萬餘個の玄米は倉庫以外に積滯しある狀況を來せり然りと雖も之れ決して擔保借出の途に出でたるのみにあらず一般の氣勢は寧ろ値高騰を確信したるに因るものにして市場の取引稍閑散なるも斯界人心緊張し寧ろ樂觀の氣配張り居れり(釜山)

吉林防穀と間島 北鮮の影響

吉林省防穀令の命ずる所に從ひ間島粟は愈々二十一日を以て輸出禁止の運命に至りぬ同令が間島に與ふる衝動は粟と高粱の二種輸出禁止に限らるゝも就中粟の輸出禁止に因つて影響する波紋は痛切に北鮮市場を襲ふべきなり由來間島粟は輸出品中の第一位に居り北鮮沿岸に亘る

▲鮮民常食の供給は殆んど間島粟に俟ち從つて北鮮市場に於ける間島粟の位置は頗る重要を占め相俟つて通商に利し經濟の共通は過半粟の輸出に據りて支配さるゝに一朝同防穀令實施されんか此通商連川一時破壞さるべきは此揚合止むを得ざりとするも北鮮沿岸一帶鮮民の常食を如何にすべきやの問題を惹起すべく這は區々たる地方問題と見做すべからざるに至らん現に角年來國境沿岸地方の鮮民は間島粟の供給に信賴する所深く彼等の常食は一に其輸出に仰ぎ居りたるに

▲今之を杜塞するに於ては勢ひ密輸入を企つるの弊を馴致し易し然るに一方支那側にては防穀令の取締の開始と共に一層沿岸取締を勵行するに至るべくさる時は此間に惹起する幾多頻瑣の事件は頻々として起ふに違なかるべし抑も同防穀令は吉省自衛を本位とし實際上同令の趣旨と意義に副はざる間島地方の如きは支那官憲に於ても同令を固執する理由なければ間島に限り同令の撤廢要求は當然の所見たるべく本件に付ては鈴木領事館

▲直に交渉を開始したるが陶道尹も一面同意を表し實施期後の狀況によりては撤廢を肯ずる意向なりと稱せらるゝが間島並に北鮮地方の實際に照して有害無利なる同令の如きは一部撤廢の當然なるを期せざるべからず(間島)

京畿恩賜金事業 京畿道

恩賜金事業の一たる甘藷馬鈴薯等の昨年に於ける配布成績を聞くに甘藷は本數約二百萬本にして此配布を受けたる人員は五千名なるが其作付反別は九萬四千町歩收穫高十四萬餘貫にて反當り收穫百五十三貫の割合なり馬鈴薯は總數三千本の苗配布を受けたるもの一千八百餘人にして一萬五千步の作付を爲し四萬七千貫の收穫ありたり右の二種は鮮人の食料として最も適し年々其苗の配布希望を申出る者多く本年に於ても約五千圓の豫算を以て各面に苗床を設けしめ汎く一般に配布すべしと

京畿農事獎勵會 京畿道

京畿農事獎勵會は昨年末迄に道內各郡に支會を設けられたるを以て來る三月頃理事會を開會し今後の方針に就て研究する筈なるが目下役員は長官を顧問とし李完用伯の會長趙重應宋秉畯兩子の副會長なりと

海員試驗講習會 仁川基督

教青年會に於ては海事課出張所にて來る二月十日より施行せらる可き定期高等海員試驗に應ずる者の爲に目下所要學術の講習會を開催中なるが此種の講習會は他に其類を見ず目下七十一名の會員を有し會員は何れも熱心に聽講しをれりと

人事消息

▲立花警務總長 二十八日午後七時五十分南大門發釜山へ

▲佐々木正太氏(慶尙南道第一部長) 二十九日朝入京浦尾旅館へ投宿

大阪より

▲備船界新記錄

備船界は船腹不足の爲彌が上にも昂騰を示し偶々貸船の現はるゝや各自奪合ひを演ずるの有樣なるが此程三井物產備船部にて備船せる梅丸(重量噸五千四百噸)は地中海經由を除きたる全世界の海路就航を條件として一箇年の契約をなせしが噸十三圓にて備船料高率の新記錄なりと

▲石油株の勃興

石油鑛區は東北地方に散在して關西に絕無なる關係上石油株は日石寶田の兩株式を大關として東京株式市場の花形たるに附隨して高下せる如く頗る閑却せられしが昨今金融の緩漫に企業熱の勃興して日本染料株若くはグリセリン株の騰貴大盛况を呈せしに鑑みて日油所有の秋田黑井の鑛區附近の鑛區を買收して新に新田石油鑛業株式會社が大阪の人々によりて發起せられ既に其公募も發表したれば石油株の前途人氣を蝟集せるものとの見越は期せずして二十四日の株式市場に石油株の買氣勃興して日油寶田株の突飛高を呈するに至りしが或は之が爲め大阪株式市場に於ても石油株の商內殷賑を呈するの動機となるべきかといへり

▲綿糸保合相場

支那の騷擾に輸出綿絲の不良を唯一の軟弱材料にせるも大勢上綿絲產額の增加に其の消化力の伴はざるの有樣なるが綿界に斯かる暗雲の漲り居れるに拘らず案外底意手堅きは畢竟金融緩漫にして在荷の漸增をも支持するの力增大せし所以なればなり故に高値には警ぎの少なからざれど伸力乏しく左りとて一般人氣の好勢に賣物あれば相場は混沌として氣迷の保合相場を呈せり

▲軍用貨車試驗

大阪砲兵工廠に製作中なりし軍用貨車竣成せしを以て渡邊砲兵大尉は職工三名を率ひて幹部乘用の自動車若干輛を携へて二十五日梅田驛發東宇品に於て試驗委員長洲崎輜重兵中佐の一行と合し滿洲へ赴くべしと(支局發)

仁川糠輸移數 昨年に於ける仁川港糠輸移出米穀數の增加は仁川開港以來の新記錄を造りたるは勿論 [illegible] 千二百四十五擔價格六萬六千百八十八圓に比し數量に於て三萬九千七百六十八擔價格に於て四千六百九十九圓の增加を示したれど [illegible] 値を見るに至れるにも係らず朝鮮糠は內地各市場に於て反對の傾向を示し漸次價格の下落を來し昨年下半期に至り元 [illegible] 時的の事にして內地各地方に於ても追々施肥季に向ひ且つ內地移入稅金の撤廢を見るに至らば相當需用增加の途もあるべく決して悲觀するには及ばざるべし [illegible]

[illegible] 前四時慶北安東郡南先面幌內洞二統六戶農朴花香(二五)方に失火あり同四時四十分頃にして鎭火したるが同人の妻圓大金(一八)は無慘にも [illegible]

鹽酸モヒ密賣 京畿道開城郡松都面南本町居住藥種商岡本豊吉 [illegible] 鮮人に密賣したる爲め過般開城支廳に於て罰金四百圓及び科料十圓の判決を受けたるを不服とし京城覆審法 [illegible]

京日案內

普通 一回前金三十錢(無割引) 一回五十字以內每增加一回每に金五錢增

◉雇入 齡十七八歲迄店員入用希望者來談 ◉陸軍用達和洋菓子商 龍山三角地娛樂園前 電三二一 石見堂 298

◉看護婦募集 希望者は履歷書携帶本人來談あれ 南大門通三藤木商店橫入 胃腸病院 296

◉看護婦採用 免狀或は有經驗者本人履歷書携帶至急來談あれ ○京城本町二丁目十六 贊化病院 301

◉番外 一回前金六十錢(無割引) 一行每に金五錢增

姙婦產婦御預り致升 ▲經費僅少出來 申込次第入院案內書送 京城產養院 南山町二の卅五 電話一三二九 299

京城日報 初號より四十三年末迄取揃へ相當代價に譲受たし (住所姓名在社)

皮膚病 花柳病 專門 須古醫院 京城永樂町一商品陳列館坂の上 電話二一〇番 243

◎質 完全なる倉庫の設備あり 京城吉野町一丁目(南海湯下隣) 南海質店 191

恩給 年金 退隱料 扶助料 長期 當分 法定利子以內にて無手數 即時立替 地方者便法 有 京城永樂町一丁目 四商品陳列館前 江州屋本店 219

恩給 年金 無保險 地方任住者 上京不便 法あり其他擔保信用貸仕候 京城南大門外 ○御成町 山口屋 224

▲靴 卸小賣 堅牢優美 價格低廉 大勉强 注文寸法 御一報次第參上 修理 目錄定價表 京城壽町廿 電話七〇九 エビス屋靴店 231

質 京城黃金町二丁目(永樂町停留所北入) 堀佐營業所 電話六三九番 232

キャラメルは藤商會の(割引券附)に限る 人蔘キャラメル 本品は至る所の食料品店菓子店に販賣し居れり 291

結核 肋膜炎 喘息 及注射療法 (入院隨意) 京城南山町二丁目 松岡醫院 電話六七五番 261

菓子 食料品 雜貨 商 龍山漢江通十三番地 山田商店 電話五二七番 255

好職 利益多大美術ゴム事業 老幼男女誰でも出來本業又は副業に適す志望者は來店又は郵券十錢送れ案內書及製品見本急送呈す 京城太平通二大漢門前 太陽ゴム商會 302

茶花琴教授 左に移轉從前通り束修及月謝のみにて教授す 京城太平通二ノ一四一朝鮮公論社南側西入一丁南大門學校北裏 木本與志惠 300

謝類燒御見舞 本月十九日類燒の際は御見舞被下有難く奉存候早々御禮申上度候處彼是取紛れ無之延引仕候中に付乍略儀以紙上を以て御禮申上候 謹白 京城壽町 土地調査局出張員 小島勇之助

美味に富る珍菓品揃 陸軍御用製菓商 新龍山漢江通三角公園前 電話三二一番 石見堂

肥料 大豆粕現先物 硫酸アンモニア 過燐酸各種 石灰窒素 煙草肥料 果樹肥料 先物豫約販賣仕り候 油粕各種 智利硝石 硫酸加里 內外輸入肥料一式 稻麥肥料 各作專用配合肥料 釜山驛前 滿留嘉久肥料店 大邱驛前 滿留嘉久支店

新刊書御案內 書名 著者 定價
◉日本書畫骨董大辭典 池田常太郎 特一、〇〇
◉格言大辭典 芳賀服部安井 特二、〇〇
◉肥料的麥作改良法 鈴木千代吉 二、六五
◉小學校に於ける教育教授の實務 澤正 一、五〇
◉小賣商店廣告法 清水正巳 九〇
◉實用新聞雜誌廣告術 野崎寺良 五〇
◉新倫語 村上俊藏 特一、二〇
◉通俗講話四季の衞生 枝元長夫 八五
◉獨家經濟中流生活法 島挽李子 八〇
◉我等何を爲す可きか 加藤一夫 一、六〇
◉隱元、木庵、即非 高橋竹迷 一、〇〇
◉詩傳乃木大將 兒玉花外 八〇
◉日蓮上人 熊山碧城 一、二〇
◉戀の秘訣 松崎梓人 五〇
◉女性中心說 レスター・ウオード 七五
◉貧乏と戀と 安成二郎 六〇
◉歐洲文壇印象記 野口米二郎 一、〇〇
◉虞美人草 夏目金之助 一、二〇
◉鏡花双紙 泉鏡太郎 一、三〇
◉朱葉集 與謝野晶子 一、〇〇
◉歸嚮 長塚兵中尉 八〇
◉十字路 櫻井大助 一、二〇
大阪屋號書店 京城本町 電話二〇八六番 振替京城二五七三

第廿二回決算報告

(大正四年十二月卅一日)

貸借對照表

借方(資產ノ部)

科目	金額
建設費	壹六五、壹〇〇、七八武
土地家屋	壹壹、四五七、四七五
船舶	七八四、七壹〇
給水備品	九四、參五〇
什器	九〇七、〇〇〇
未收入金	四壹七、五六〇
當座預金	參、武武武、七九〇
假拂金	七〇、〇〇〇
現金	八參、五八〇
合計	壹八武、壹參八、武四七

貸方(負債ノ部)

科目	金額
株金	壹五〇、〇〇〇、〇〇〇
債務手形金	六、五〇〇、〇〇〇
積立金	壹六、〇〇八、參武〇
繰越金	五、壹〇武、七八七
未拂金	四八武、四參〇
當期利益金	四、〇四四、七壹〇
合計	壹八武、壹參八、武四七

損益勘定

科目	金額
總收入	九、壹〇八、壹壹〇
總支出	五、〇六參、四〇〇
差引當期利益金	四、〇四四、七壹〇
外前期繰越金	五、壹〇武、七八七
合計	九、壹四七、四九七

此分配方法

科目	金額
積立金	八〇〇、〇〇〇
賞與金	四〇〇、〇〇〇
配當金(年四朱壹株壹圓)	參、〇〇〇、〇〇〇
後期繰越金	四、九四七、四九七
合計	九、壹四七、四九七

右之通リニ候也

大正五年一月

釜山棧橋株式會社

取締役會長 迫間房太郎 / 取締役 大池忠助 / 同 豐田福太郎 / 同 井谷義三郎

右監查ヲ遂ゲ其正確ナルヲ認ム

監查役 吉川龜吉 / 同 內山米太郎

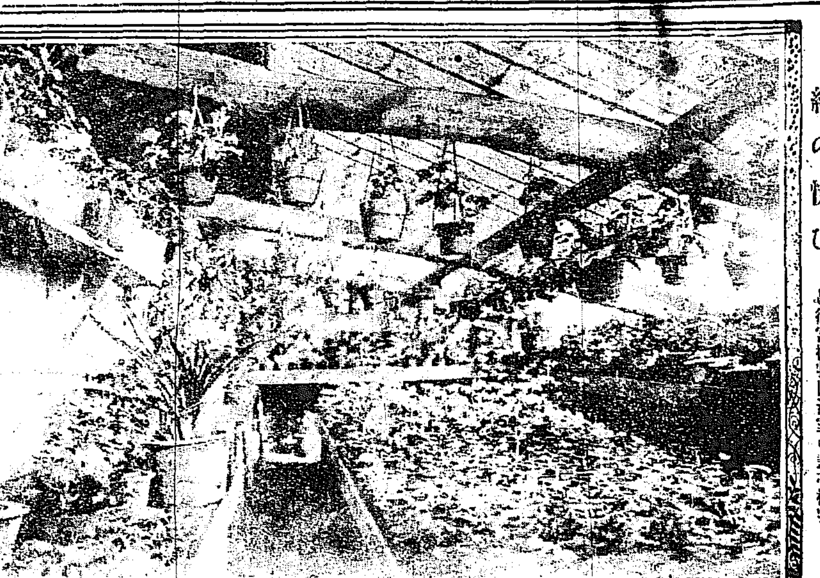
…の如くなるが精米業…の増加に伴ひ是れが副産物たる精米糠の輸移出數を見るに其數量十四萬四千二百十四擔其價格七萬八百八十七圓にして是れを前年度の糠移出數十萬四…るものなるやに就き…によれば昨大正四年度は其前年に比し米價漸次回復し下半期年末に際しては品質の向上と共に漸く希望の呼…各市場に…方々昨年の如き船腹不足の際には徒らに現品の堆積を來し遂に稀有の安値を見るに至りたるものならん然れども是れ一…りしは如上の理由なるが今其…出數を月別にして示せば左の如し

	數量	價格
一月	五一,九三	二,九七九
二月	一五,四七九	七,八四〇
[illegible]	(一二〇)	一,一〇一
十二月	一七〇,九四	七一,〇六
計	一四四,二一四	七〇,八八七

◉大邱高女敷地代寄附　大典記念大邱高等女學校敷地買收寄附金既納者…興矢新太郎△金…十錢…松原峯△小計金百四十五圓九十五錢也△通計金五千六百四十一圓廿六錢也

◉南先面の火事　去二十日午…と(大邱)…の中に包まれ燒死したり原因は炊事…温突口に發火ありて燃え差しの薪に移り屋根葉に延燒したるものならん

…業し居れる內同地大和町支店に於て相當の手續を踏まず大正四年一月以降前後九回に亙り鹽酸モルヒネを朋…


緑の悦び＝昌徳宮植物園温室の熱帯植物

◉香の國、綠の郷

南洋へ行つたやうな氣分にならせる植物園の温室　冥想的な、といつてまた、興奮的な情調

暖かいと云つても春はまだ遠い先だ、冬枯の眺は何處までも灰色に淋しい此の冬枯の沙漠の中のオーシスの様に常春の花の咲盛つて居るのは

◆秘苑の植物園で

ある植物園の水野技師は斯んな事を云つて居る一體人間は蝶の如うに花を求め憧憬れて歩く自然の性情があるから冬になると温室の春にさそはれて來るものであるが京城の人達は野山の花の咲く頃にならなければ温室へも花を尋ねに來ないと云ふ一種異つた習慣性を持つて居るので此頃の秘苑の温室は蝶も來ず人も訪づれず寧ろ閑靜だ温室はたゞに紅や紫の花許りでなく青々たる木の葉や草や

◆夏さながらに繁

つて居る處に無限に慰めの情を含んで居る、昨今秘苑の温室に咲き盛つて居る花は色々なシネラリヤ及びサイクラメン無數種の櫻草、風鈴の如うなシヤボテンの花、あえかに美しいベコニヤ、青葉の中に白い小さな手を擴げた様なフイチヤの花が

◆強い匂を放つて

居るし、近來英國あたりで大變にやかましく持て囃して居るスヰートピーが可愛らしい赤兒のやうに、眸をあげて居る、蘭に關する知識は大抵狹いもので誰しも二三種又は十數種の蘭の外は知らないが此の温室の中には殆んど何百何千種と云ふ様々の蘭が

◆硝子越の暖かい

日光を吸ひ込んで馥郁たる薫香は咽せるばかりである更に本館に這入ると茲には南洋其他熱帯地方の植物が鬱蒼として枝を交はし葉を重ねて居る館內の氣温は五十度乃至七十五六度の間に在つてバナナの實熟する葉の下を踏めば灰色雲の凍つた下から來た事をさへ忘れ、婆娑たる椰子の葉蔭に佇めば苦熱を逆れて

◆南國の森かげを

逍遥つて居る様な心持がする館の中央の池にはニル河畔に密生する巨大なるシベラス、パピルスと稱する水草が植ゑられてある埃及王朝の歴史は此の水草の皮に書き綴られて居つたのである其外羊歯類の一握り以上もある棕櫚種のビコーや前世紀植物の

◆青珊瑚樹や大谷

渡り等如何にも南國の氣分を象徴して居る蘭打類の一種である臺灣の蛇木は如何にも巨大なる蝶が鎌首を擡げた様な恐ろしい惡形を現して居る敬虔なる印度の宗敎家が伽陀の捧げ物に缺くて叶はぬ甘い木の果のチヤンポサは厚い青葉の間から少さく覗りかけて居る

◆方數町を蔽うて

恐ろしく巨大になる榕樹もまだ可愛らしい若木でだるげに畏つた様なスチームの暖かさに手を延べて居る、詩人や畫師やあらゆる學者達が名譽の冠に飾ると云ふ月桂樹も昔ペニオス河畔でアポロン神がダフネ姫の化身を抱いたまゝの青々しさと柔かさとの茂つて居る

◆ボウゲンどリヤ

即ち南國の詩人をして常に嘆美措く能はざらしむる茉莉花は其の蔓十數丈に延びて星の様に紫或は水色に又紅く無數の花が咲き充ちて居る此の外千年木、パナマの原料になるパンダナスビーピヂーヤツンベルギヤの青藁や椰子樹の各種ゴムの原料植物等

◆何を見ても南國

の森林の中に分け入つて居る様に思はれて全く荒涼たる冬を忘れ諸々とした夏の人に成つた心持になる

◉暑いも寒いも＝あるものか

日本兵の行くところは何處でも天國

＝…談の一節＝

露獨國境の氣温は昨今零下廿度乃至卅度位だと云ふが無論寒いには違ひないもの〻、昨年一月の京城の一番寒い時で零下廿何度と云ふ位であつたのと對比して見れば大抵想像はつく然して此位の寒さは日露戰爭の時

◇滿洲あたりでも

あつた譯である一體日本と云ふ國の位置が温帶にあつて然も熱帶、寒帶兩帶に跨つてる爲めに國民の發展と云ふ上から見ても双方に融通が利く我々の側から見ても兵士が寒熱兩帶に於てもさしたる不便を感ぜずに活動する事が出來る現に日露戰爭の時は是等兩方面の最上の經驗をして來てゐる暑い方では直射地上照返し百二三十度の處で優に實戰してゐる頃者説を爲す者あり日英同盟の關係から或は印度へ出兵するやも知れない其場合に於て餘りに温暖の地に生活して來た日本兵はよく印度の暑熱と戰ひ得るや否やさ、印度出兵の否やは問題外として滿洲の炎熱に實戰の經驗を有する

◇日本兵は決して

印度の炎熱でも辟易する樣な事はない龍のひるむ時は虎も亦疲れた時である敵が避暑地にでも來てる積りで戰ふ時味方のみ物々しく身装ひして炎暑と戰ひ乍ら敵と戰ふ樣な事は別として苟くも地球上人間の棲合つてる處なら如何に暑いの寒いのと言つても日本兵が行つて戰へないと云ふ事はない然も斷じて世界に生棲している人類中に於て頭腦の點からも肉體の點からも多少は優越したものを持つてる積りの日本人に於てをや即ち我等日本人は暑さや寒さを超越して度外視して

◇實戰に參じ得る

覺悟である無論多數の內には多少の弱い體の者もあらうから日射病や凍傷などに罹る者もあるではあらうけれども實戰となれば夫等は要するに問題でない些々たるものであつて實戰の場合には何等の影響をも與へないものだ

◉少尉候補生の京城見物

今日は學校參觀

士官候補生百名は廿八日午前九時廿二分南大門着臨時列車にて仁川より入京直に昌德宮に向ひ宮の內外觀覽秘苑より植物園に出で動物園博物館觀覽の上徒歩パゴダ公園に赴き朝鮮ホテルに於て茶菓を認め茶菓後景福宮を見物し同夜は原金旅館に五十五名、京城ホテルに二十名、浦尾に二十名分宿、廿九日は午前十時各旅館發足朝鮮人小學校を觀覽の上晝食を各旅館にて認め午後は自由時間として三時五十分南大門發臨時列車にて歸仁の豫定なりと尚兩艦乘組下士卒一千三百名は半數宛兩日に分れ共に二十八日は右候補生同車の午前九時二十二分南大門着臨時列車にて入京直に景福宮に到り慶會樓にて愛國婦人會より寄贈の菓子、煙草の饗を受け午後三時五十分發列車にて歸仁せり二十九日の半數も右同樣の行動をとる豫定なり

◉紙が綿火藥に化ける!!

お陰で本は讀めない

歐洲戰亂突發と同時に西洋紙及びその原料の輸入杜絶を見越した洋紙商界は大いに狼狽して滅茶くに暴騰したが扨て事實は案ずるより産むが安く在庫品も相應にあれば

▲開戰前に註文　した品はぞくく輸入されるといふ姿で一時持上げた直段も追々下つて來て昨年の八月頃までは上つたり下つたりで持つて來た所がその後になつて輸入は全く止つてしまひ在庫品も段々品切れとなり相場は頗々拍子に騰る一方出版屋や雜誌屋では是迄使用の一等の紙を二等紙に落とし二等紙を三等紙に落とすやうになつたが昨今の歐洲電報によると洋紙の原料産地たる瑞典、諾威もまた戰禍の卷に投ずるやうな形勢があり各交戰國では紙の原料たるパルプを

▲綿火藥に代用　してゐるといふことが判つた是では到底日本に上等紙の出來る譯がないと內地の洋紙商は俄に洋紙買占を始め出した獨り內地のみならず上海、南洋、印度邊の商人も直段を問はず日本に製紙の輸入杜絶せぬ間にと先を爭ふて先方から直を上げて仕入を申込むやうな有様なので小さい出版屋など現金でなければ買へぬ程品拂底となり昨今では洋紙相場は目の玉の飛出る様な暴騰で高いものは戰爭前から見ると恰度二倍先づ普通上等品で

▲五割乃至六七割　といふ暴騰を來した從來雜誌の廣告に赤黄など種々の取合せに腐心したものであるが色紙は餘り高いのでこの頃では色紙を減切り使用せぬやうになつて來た此上昨今のやうな形勢では雜誌の廣告に色紙などは殆ど見ることが出來なくなるであらう又この暴騰と同時に書籍の値が上がるのは必然であるが出版屋の方では値を上げるより先づ紙をドシく落して行くのと洋紙の厚さを減すると共に體裁が見苦しくなつて行くは免れまい斯く洋紙の騰貴と共に自然和紙を代用する向もあつて和紙はそろく頭をもたげかけた(下略)

◉冬の水上勤務は却々辛い

仁川附近の海上を警戒する爲め稅關棧橋の前に同警察署水上派出所が設けられてある同じ様に骨の折れる盡忠の勤務でも陸の勤務とは聊か違ひ中々辛い殊更冬の勤務は全く世人の想到し得ない樣な困苦がある、自己の任務を思へばこそ完うし得られるのである沖合からビユーと吹いて來る

▣汐風に吹かれ　ながら高い凄い荒浪と戰ふて一日何回か內港外港の海上を警邏する其の辛さは御話の外だ外務も船といふ船が出入する時は夜が夜中でも薄い外套の襟を立てゝ一々嚴重な臨檢をするのであるが棧橋が鏡の樣に氷結したり激浪に洗はれた甲板が忽ち凍り付いたりして危險で歩行する事が出來ないやうな場合は其の辛さが一入思ひやられる目下京畿道の沿岸を警戒して居る備船は二隻で寒い年などは

▣流氷が來たり　難破船や火災を起したりする船などや無燈で航海する船などを戒しめ其他任務を何々と數へて來たならば恐らく數限りがなからう昨年八月總督府から開港規則が發布せられ海上の秩序を計る爲め船の碇泊中は碇泊燈航海中は航海燈を揭揚することに定まつて居るが當來の習慣上朝鮮人は中々實行しない之等の事から衝突などの災害が生じるのであるから水上署では嚴しく言ひ聞かせて居る其他仁川は潮流の干係上大抵な船は夜半一時二時頃

▣鯨の吠ゆる様　な汽笛を吹いて出帆するが眞の闇の夜などは危險である一朝間違つて海中などへ落ち込んだが最後一時間五浬以上も流れる激浪に卷き込まれて仕舞ふのであるから自己の職責とは云へ…なければならないが此寒空にも海上の勤務には多大なる同情を寄せるのであるが之も任務の務めと思へばこそ出來るのである

◉お伽講演會　朝鮮の少年社に於ては三十日午後一時南山町京城高等女學校に於て小國民の育英に資する目的とするお伽講演會を開き各學校敎師其他兒童敎育に對する篤志家の極めて有益にして面白き講演あるべし

◉作品展覽會　全朝鮮各地を遍歷し解氷を待つて滿支露方面に進ばんとする京都の青年畫家本名貞氏は平壤在鄉軍人分會に於て作品の展覽會を開催する由

◉道廳內の盜難　二十六日慶北道廳稅務係平原氏は外套及び帽子一個價格二十圓、理財係の海田氏は外套價格三十圓を事務室內の帽子掛に掛け置きしに午後五時頃歸宅の際紛失し居りたるに氣付き四邊隈なく捜索したるも更に分明せざるを以て警察に通知し刑事出張の上取調を了し目下犯人捜査中

◉棍棒で不意打　支那山東省登州府萊陽縣生れの天鎮亭(三九)及び同州府萊陽縣生れの[illegible]四永(二一)は何れも咸北富寧郡西上面蒼坪洞に居住し煉瓦職をなし居れるものなるが前記蒼坪洞居住の某京浩が昨年九月廿七日金品を所持し支那人間に旅行するを探知し兩名共謀の上同洞茂山附近に京浩を待ち構へ同人の通行するを認むるや携帶の棍棒にて不意打ちに同人を強打して人事不省に陷らしめたる上紐を以て同人の頸部を絞めて殺害し所持金二十五圓內外雜品數點を強奪したるものにて一月十八日咸興地方法院に於て兩名共に死刑の宣告となりたるを不服とし京城覆審法院に控訴したり

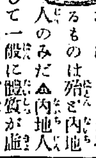
◉女中の投身　龍山鐵道局官舍居住德田元吉方下女愛媛縣生れ條岡くりえ(二七)が廿八日午前六時頃同官舍內井戸に投身自殺を遂げたるが別に遺書とてもなく原因は精神錯亂らしいと同人は良人某と共に新幕方面にて所帶を持ちたるも家事上の都合にて昨年十一月夫婦別れを爲し直に同人のみ當地に來り前記德田方へ雇はれしものにて別に親戚も知人も無く死骸は德田元吉引取葬送する由

◉水道料を喰ふ　宮崎縣南那珂郡榎原村當時京城和泉町居住平部熊彼(三)は京畿道水道事務所に臨時測夫として從業中大正三年九月より大正四年五月末迄に領收證を僞造し規定の帳簿を誤魔化し龍山元町にて四十五名の內鮮人宅より水道料金四百三十餘圓を取立て、橫領したる事件は此程京城地方法院に於て公判裁判長里見判事陪席原田…書記係檢事立會ひにて懲役一年六箇月の處分となりたり

◉親友會新年宴會　京城に於ける宿屋料理店の料理人を以て組織せる親友會にては二十七日午後三時半より南山町松葉亭に於て新年宴會を催したり開宴に先ち大鐘主人の挨拶あり次いで勤續三年間の料理人浦尾旅館の光田、天眞樓の中島、いそべの阿部の三名に對し感謝狀並に銀盃一個宛を授與し澤田料理店組合取締、新天地組長の挨拶福引等の餘興あり六時過ぎ散會せり

◉仁川柔道研究會　仁川宮町裏通り一丁目仁川商業會議所構に柔道相互研究會を設立し講道館二段生迫俊勝氏指南を爲す由會費は一箇月金五十錢也と

◉三煙草が安くなつた　東亞煙草株式會社にては一般愛煙家の嗜好に適める大和、三和、ヌリヤの三種を一個に付き各一錢宛時價より値下げを斷行すると



▲隈部警務部長曰く此頃猩紅熱が京城に續出するが罹るものは殆ど內地人のみだ▲內地人は朝鮮人に比較して一般に體質が虚弱である、赤ん坊の時から可愛がり過ぎて餘りに大切に仕過ぎ弱く育て上げる傾きがある▲元來餘りに人工を施し過ぎると弱くなるといふ例は何れの生物でもよくあることで是等の點から見ると小供も適度に可愛がつて病氣などに抵抗力の出來る様に養へて置く必要がある▲朝鮮人の體力が強壯であるといふのは一面から見れば自然淘汰上強い者のみが生存して弱い者は疾くの昔に陶汰されたものでもあらうが概して病氣に罹るものが尠いのと罹病しても抵抗力の強いのは事實である▲しかし身體の風采上體に『反動』といふものが朝鮮人には一つも見えぬ、內地人は幼少の頃から足先き五本の指に力を罩めて極めて反動力跳躍的に身體を運動して成るべく身體を輕くする様に自然に身動きをやつてゐるが▲是に反し朝鮮人は夏でも足の指先に綿の厚く這入つた足袋を穿いて大きな木製の下駄を穿いて踵で歩いてゐる其習慣の爲め全身に引締りがなく重いやうに見える是が反動のないといふものである從つて輕捷といふ點で內地人には適はぬ▲それは兎に角內地人も今少し朝鮮の氣候に身體を鍛練しなければならぬ

酒精アルコール
直輸入元　仁川花町(電話六五〇番)　坂倉伊平商店　電略(サ)振替口座京城五八二番

大日本優等清酒　ハクツル
品質純良　衛生無害

攝津灘御影町　釀造元　嘉納合名會社
京城本町二丁目廿番地　發賣元　前田酒店　電話一三七番　振替口座四二五番

內科　小兒科　入院隨意
京城明治町(元講武學校隣)　中島醫院　院長　中島貞信　電話三七八番

開通御披露　電話五四二一番

印章版木ゴム印並ニ菓子型彫刻　守山安次郎　、堂　京城本町二丁目五二三

入院隨意　酒井婦人病院　京城永樂町二丁目(商品陳列館裏門通)　電話二六〇〇番

銚子港　田中玄蕃釀造
ヒゲタ醬油
代理店　京城明治町一丁目　櫻正宗發賣元　山邑京城支店　電話八四九番　振替貯金京城七五番

貯蓄預金　元金百圓ニ付日歩壹錢四厘　金壹錢以上何程ニテモ御預申候
株式會社長崎貯蓄銀行代理店
株式會社十八銀行京城支店　京城黄金町電話四二〇番五八〇番　振替貯金口座京城八一四番
同　龍山出張所　龍山旭橋町　電話一八番
諸預金貸付爲替銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候

千生瓢 (110)

須藤南翠作　筒井年峰畫

長蛇を逸す（六）

神部兵左衛門、安からぬ事に壁えて、備へを立て直さうと焦燥る處に、糟屋武則馬を進めて、槍を扱いて突きかゝつた。

鬼角に邪魔な若武者、一槍に突き倒して、道を開くより外はないと、兵左衛門は莞爾と笑つた。

『神部兵左衛門が首、左までに所望とあらば、討ち取つて手柄にせよや』

槍を捻つて突き返すに、武則少しも躁がず、徐ろに應らふうち、兵左衛門は老たる身の、呼吸次第に逼り來たるを見て、武則槍に力を入れ、隙間もなく突き進み、怯む處を附け入つて、鬼と一聲繰り出す槍に、兵左衛門は突き落されて、終に壯烈の最後を遂げた。

原勘兵衛これを見て、

『神部兵左衛門が讐、其處な退そ』

と呼はつて突きかゝる。

何としたのか、一二合突き合ふ間もなく、之も槍下に突き伏せられて空しく糟屋に名を成さしめたのであつた。

柴田權六勝久は、青木勘七、長井五郎左衛門尉と一手になつて、上方勢を追ひ立て、追ひ捲り、此の勢ひを抜かずに、直ちに本陣に切り入つて、秀吉と雌雄を決さうと、破竹の勢ひを以て進み來る處に、平野權平長泰の一隊、剩すまじと馳せ付けた。長井も青木も、平野が擧動を心憎く思ひながら、進る敵は討ち破られば、本陣に進むことも叶はぬので、先づ之を討ち破つてと、迎へ戰ふて雄健ふのであつたが、故柴田伊賀守勝豐の與力、神谷越中守、定田左近の兩人、平野が一期の大事と見たので、左右より打つて出で、北國勢を取り籠めて、喚き叫んで戰ふた。平野權平長泰は、願はぬ援軍に軍を任せて、己は少しく馬を退き、弓弦喰ひ濕して、滿月と轉き擔り、狙ひを定めて切つて放てば、名譽の射手に空矢はなく、先頭に立つた直木勘七を、馬より撞と射て落した。

其を見ながら見ぬふりして、長井五郎左衛門尉馬を進め、代つて指揮をする處を、長泰この矢をひやうと射かくれば、長井も急所を射貫かれて、馬より落ちて死を遂ぐる。

二人の大將同じ枕に討死したので、其手の者共、今は戰ふ勢ひなく、崩れ立て逃げ走る。或ひは惑うて追ひ討たれ、或ひは躓いて谿に落ち、散々に切り崩されて、辛くも戰場を落ち延びた者は、纔幾千もなかつたであらう。

かゝる中に、柴田權六勝久は、血氣壯んの若武者である。青木、長井の討たるゝも怯む色なく、眞先に立つて進んで來る。定田左近、是れぞ此手の大將と見て、我れ討ち取つて功名せばやと、馬を進めて槍を著けた。勝久目敏く見咎めて

『やあ、汝は修理允重恩の破りながら、伊賀守を勸めて筑前守に從はせば、この權六も見忘れた。慾にばかり目が眩めた定田左近な。不忠不義の見せしめ、今ぞ思ひ知らうぞ』

一喝して繰り出す槍の烈しさ、定田も之を請け離ねて、逡巡がちに見えた處を勝久透さず突き伏せて、屍を馬蹄に蹂躙らせ、猶も蹄りに進んで行く。

神谷越中守かくと見て

『若殿おざるか。越中お首級賜はらうとな。忝けなうおざる』と、躍り出で、槍を著ける。

勝久之を後目にかけて、槍を合はさうとする折柄、權六が乳母の夫に本條忠次といふ者、後より驅け付けて、神谷が兜の眞甲を、割れよ、砕けよと撲りつけた。剛力に撲られて越中守何うして堪らうぞ、兜は腦頭に滅入込んで、血反吐を嘔いて馬より落つ。

本條は是等の首を取らうとしたが、勝久が一心に本陣を志して、脇目も觸らず進み行くが心許なさに、後を追つて驅け續けた。

時に片桐助作貞盛向ふより馬を走らせて、

『柴田權六殿おざるな。何處をさして落させらるゝぞ』と、笑を含んで呼びつけた。

新刊紹介

▲新選記事文講話（佐々文學博士）習ふより慣れろと言はれた文章も秩序を立てずんば徒に時を空費するのみ即ち著者多年の經驗により文を數十種の下に論じ科學的美術的の二大分類の下に… 成る各項文範を示し親切なる秘訣を說き…（定價金八十五錢東京市牛込區白銀町二〇育英書院）

▲國技（三の一）定價金十錢東京市本所區横網町一の一七相撲通信社

▲隨筆集（三五）定價金二十五錢東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷町五二四隨筆吟社

▲俳諧（二の一）新傾向俳句の普及者…機關雜誌にて志ある者の必讀書（定價金八錢東京麹町富士見町一の一三春秋堂）

▲道の友（二九〇）大聖教の機關雜誌にして本號は教祖三十年記念號たり（定價金十三錢奈良縣山邊郡丹波市町大字三島八〇道の友社）

▲財政刷新論（上島長知主筆述）公民叢書第二巻にして上中下の三部となり大隈伯の財政觀より大正の新氣運に到る迄我れ可尊に說く（定價各金十錢東京府下ヶ澁谷二一八エンス館下公民同盟出版部）

▲新小說（新年號）特別號として三百頁の大冊となつて…

▲少年（二月號）定價金十五錢東京市京橋區…

▲世界の產業（二の一）東京市麹町區…

▲臺灣教育（一六四）定價金廿錢臺灣總督府…

▲勞働及產業（五三）定價金十二錢東京…

▲朝鮮鐵道青年（六の二）…

▲大陸（三六）…

▲花その（一ノ二）定價金十錢大阪市外天王寺村一九三五花園社

▲工學（二ノ二）定價金廿…錢東京市…

▲小學教育（四）…

▲隔週雜誌イーグル（創刊號）…

◎婦女界（二月號）本號にては柳川春葉氏の家庭小說…

◎婦人之友『迷信禍福號』婦人之友二月號は迷信禍福號と題し迷信に關する種々の趣味ある記事…（定價拾五錢）

◎クラブ本店の光榮　クラブ本店發賣のクラブタルカンとクラブ天爪粉とは昨年十二月皇后宮職より御買上げの光榮を荷ひました…

▲作文例 議論文（大町武島久保三文學士著）新式作文大成第六編にして三文學士の名は既に知られ其文に心ある事言ふに及ばず本編亦見るに足る総論、内容の整頓、體式の整頓の三項に全編を約し現代知名の士の論文六十餘編を蒐す文を學ばんとする者一讀の要あり（定價金五十五錢東京市日本橋區本町三の八博文館）

▲畜犬標準書（田丸亭之助氏著）野犬と畜犬とは何處が異ふか同じ犬にも隨分多くの種類がある畜犬飼犬玩犬其他の訓練飼育の方法又は疾病治療の方法等愛犬家に取つて最も必要なる知識であるにも拘はらず今日迄此種の書籍といへば皆無に等しかつたが猟犬の飼育訓練に於て本邦唯一の專門家たる田村亭之助氏が今回出版した本書は氏一流の…を以て實際問題を說いてあつて二十年間の…經驗した智識の賜物であるから…

商況

大阪三品

大阪株式特電

▲後場の大商戰

▲丸々の大買物

▲取組高増大

大正五年 國民年鑑

定價五十錢　郵稅十二錢

千人の智も此の一卷に及ばず

一度び手を觸るれば、御大禮記を始め政治、經濟、財政、金融、軍事、外交、教育、宗教、文藝、美術、運動、遊藝、演劇、相撲、圍碁、將棋、都市、植民地の現狀は勿論歐米、支那、其他現代人物、銀行會社等社會萬般の事象一として漏す所なし。

朝鮮語會話

●受驗者の讀まねばならぬ會話書●

目次

第一　諺文
一　諺文の製作
二　諺文の組織
三　諺文の綴み合せ方
四　諺文の發音表
五　諺文十一題

第二
一　いろは歌
二　編や音の變化
三　間投上の原則
四　濁音
五　音便
六　音の高低表
七　不完全音
八　母音相通
九　○に就ての心得

第三　
一　類語
二　挿入語
三　編緒の發音
四　章の語の相違
五　根本的用語
六　單語
七　自習十題
八　章品詞略解
九　名詞
十　動詞
十一　形容詞及助動詞
十二　現在
十三　過去
十四　未來
十五　尊敬十題
十六　應用例題

來る四月の文官普通試驗受驗者座右の生きたる顧問として歡迎益々盛んにして忽ち初版一萬部を賣り盡し再版亦盡んとす速に一本を求めて其眞價を知り給ふべし

大賣捌所　京城太平通一丁目　振替京城三〇〇番

京城日報社代理部

最上醬油

朝鮮仁川港

高杉醬油醸造場

治宇月桂園茶舖　地方通信販賣　營業所京城旭町二丁目（電話九九八番）

日本郵船仁川出帆

○大連、秦皇島行
相模丸　二月四日　正午出帆
竹島丸　二月十一日　正午出帆
高砂丸　二月十二日　正午出帆
仁川海岸町十一丁目　堀回漕部

大阪商船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、長崎、門司、神戸、大阪行
油頭丸　一月卅一日　午後五時出帆
天津丸　二月五日
温州丸
○木浦、釜山、長崎行
安東丸　二月九日　午後二時出帆
城津丸　一月卅一日
×○大連行
安東丸　二月五日　正午二時出帆
城津丸　二月十三日
○群山、神戸、大阪行
大智丸　二月二日　後四時出帆
○チョイサン丸　二月九日
△潮州丸　二月　日　午後四時出帆
△大連直行
△漳州丸　二月十四日　正午出帆
○チョイサン丸　二月九日
○浦津、浦潮行（元山出帆）
久北丸　二月十五日　午後二時出帆
地北丸　二月八日
○上海、基隆、打狗行（大連出帆）
湖北丸　二月十一日　午前四時出帆
安平丸　二月十六日
注意　○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との聯絡切符發賣仕候　○×印は本船出帆前一時間迄郵便物取扱候　○×印は一等客御斷り△印は貨物のみ取扱
仁川切符發賣所　大阪商船會社仁川支店　電話二番二〇五〇
京城切符發賣所　內國通運會社支店　電話七八〇番
中國四國沿岸各港行船客に對し當分の内門司より五割引を以て連絡乘船切符發賣仕候

汽船釜山出帆廣告

○門司、神戸、大阪行
立神丸　二月八日後五時出帆
○元山、清津、浦鹽行
立神丸　一月　日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行
小倉丸　一月　日後五時出帆
○元山、城津、清津行
小倉丸　二月　三日後十時出帆
○元山、西湖、新浦、城津、清津行
第三琴平丸　一月三十日後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行
第三琴平丸　二月十　日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
大眞丸　毎月三日九日古日廿一日廿六日　午後十時出帆
本船取扱店　大池回漕部

共同汽船仁川出帆

阿波共同　芝罘、大連行
共同丸　一月三十日後二時入港　二月一日前九時出帆
朝鮮郵便物及び荷客運送に付き大仲にて青島行定期船と同樣運賃にて通し荷物取扱可仕候

第一阪鶴丸　城津、清津、浦鹽行（元山出帆）月日後九時出港
第三共同丸　西湖津沿岸各港を經て雄基行（元山出帆）月日前八時出帆
阿波國共同汽船株式會社
本町一丁目（電話一〇八番）山下回漕部
仁川代理店　田口回漕部
元山代理店（電話二四七番）
京城取次店　南大門通（電話二二六八、二〇一七）河村運送店

朝鮮郵船

京城取次店　京城南大門驛前　松原運送店（電話長一九五三番）
鐵道及汽船と聯絡運輸の便あり、群山仁川・京城出張所、代理店、商客取扱店に御照會を乞ふ

全羅丸　二月十二日　釜山發
京畿丸　二月二日
黄海丸　二月十六日
咸鏡丸　二月六日
（木浦より各港寄港、元山各港寄港濟州島一周）
穩城丸　二月三日　元山發
昌平丸　二月　日
鏡城丸　一月　日
（元山より各港經由雄基行）
永興丸　毎月廿八回　元山發
（北久味、石里經由行）
會寧丸　一月廿九日　釜山發
江陵丸　毎日（釜山浦項）發
三浦丸　二月二日　釜山發
海州丸　巨濟丸　毎日　釜山發
統營丸　慶賢丸
順天丸　三日目毎　木浦發
慶興丸　一月二日　木浦發
公州丸　二月二日　木浦發
公州丸　二月一日　木浦發
全州丸　一月廿九日　仁川發
江原丸　二月五日　仁川發
平安丸　二月二日　仁川發
晋州丸　一月三日　仁川發
錦江丸　毎日午前　仁川發
南陽丸　一月三日　群山發
平安丸　一月三日　若松發

尼崎汽船仁川出帆

○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸　一月　日後四時出帆
大有丸　二月四日後四時出帆
神代丸　二月卅一日後四時出帆
蛟龍丸　一月　日後四時出帆
君が代丸
仁川海岸通二丁目　電話五十九番　高杉回漕部